

DEH-P620

USB / CD / チューナー メインユニット

取扱説明書

目次 4ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)



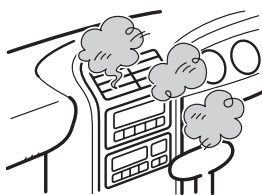
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

目次

はじめに

はじめに

- 1 本書のみかた 8
- 2 各部のなまえ 9
- 3 ご使用になる前に 12
- 4 デモモードについて 14
- 5 リモコンの準備 14
- 6 本機のリセットについて 15
- 7 フロントパネルの取り外しかた／
取り付けかた 16
- 8 サブウーファーの設定について 18

ここだけで

ここだけ読めばすぐ使えます

- 1 基本的な操作 20
 - 電源オン・オフ
 - ソース切り換え
 - 音量調節
- 2 CDのふだんの操作 22
 - CDを再生する
 - フォルダー・ディスクを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
 - CDを取り出す
- 3 ラジオのふだんの操作 24
 - バンドを選ぶ
 - 選局

CD

CDを聞く

- 1 曲を直接選ぶ 25
- 2 ファンクションメニューの
切り換えかた 26
- 3 繰り返し再生する 28
- 4 違う曲順で再生する 29
- 5 曲／フォルダー／ディスクを探す 29
- 6 再生を一時停止する 30
- 7 音を聞きやすくする 31
- 8 10曲飛びに選曲する 32
- 9 聞きたい曲を指定する 32
- 10 指定した曲だけ再生する 33
- 11 曲の指定を1曲ずつ解除する 34
- 12 曲の指定をCDごとに解除する 34
- 13 CDのタイトルを入力する 35
- 14 タイトルやアーティスト名を
表示させる 36
- 15 タイトルを見て聞きたい
CDをさがす 37
- 16 曲名を見て聞きたい
曲をさがす 37
- 17 タイトルを見て聞きたい
フォルダーや曲をさがす 38

ラジオ

ラジオを聞く

- 1 放送局を1局ずつ登録する 39
- 2 登録した放送局を呼び出す 39
- 3 ファンクションメニューの
切り換えかた 40
- 4 複数の放送局を自動的に登録する 41
- 5 放送局名を見て聞きたい放送局を
呼び出す 42
- 6 放送局名を選ぶ 42
- 7 放送局名を表示する 43

C O N T E N T S

USB

USB 機器を聞く

- 1 USB 機器のふだんの操作 44
- 2 曲を直接選ぶ 45
- 3 ファンクションメニューの切り換えかた 46
- 4 繰り返し再生する 47
- 5 違う曲順で再生する 47
- 6 曲を探す 48
- 7 再生を一時停止する 49
- 8 タイトルやアーティスト名を表示させる 49
- 9 タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす 50

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

ここだけ読めば
すぐ使えます

iPod

iPod を聞く

- 1 iPod のふだんの操作 51
- 2 チャプターを選ぶ 52
- 3 聞きたい曲をさがす 53
- 4 ファンクションメニューの切り換えかた 54
- 5 繰り返し再生する 55
- 6 違う曲順で再生する 55
- 7 すべての曲をシャッフルしてから再生する 56
- 8 再生を一時停止する 56
- 9 オーディオブックの再生速度を変更する 57
- 10 タイトルやアーティスト名を表示させる 57

はじめに ●●●●●●●●●●

CD を聞く ●●●●●●●●●●

ラジオを聞く ●●●●●●●●●●

USB 機器を聞く ●●●●●●●●●●

iPod を聞く ●●●●●●●●●●

BT AUDIO を聞く ●●●●●●●●●●

携帯電話を使う ●●●●●●●●●●

テレビを見る ●●●●●●●●●●

DVD を再生する ●●●●●●●●●●

音を調節する ●●●●●●●●●●

初期設定 ●●●●●●●●●●

便利な機能 ●●●●●●●●●●

その他（付録） ●●●●●●●●●●

BT Audio

BT AUDIO を聞く

- 1 BT Audio のふだんの操作 58
- 2 ファンクションメニューの切り換えかた 59
- 3 本システムのデバイス情報を確認する 60

目次

携帯電話

携帯電話を使う

- 1 電話の待ち受けソースにする 61
- 2 電話番号を入力して電話をかける 62
- 3 プリセットダイヤルで電話をかける 62
- 4 音声操作で電話をかける 63
- 5 かかってきた電話に出る 63
- 6 かかってきた電話を切る
(着信拒否) 64
- 7 ファンクションメニューの
切り換えかた 64
- 8 携帯電話を接続する 66
- 9 Bluetooth 接続を解除する 67
- 10 携帯電話を登録する 67
- 11 登録されている携帯電話を接続する 68
- 12 携帯電話の登録を削除する 69
- 13 携帯電話の電話帳を転送する 69
- 14 電話帳の表示方法を切り換える 70
- 15 電話帳を使う 70
- 16 履歴から電話をかける 72
- 17 よくかける電話番号を登録する 72
- 18 データを消去する 73
- 19 電話番号を入力して電話をかける 73
- 20 通話中のノイズやエコーを軽減する 74
- 21 着信音を ON / OFF する 74
- 22 着信拒否を設定する 75
- 23 自動着信を設定する 75
- 24 本システムのデバイス情報を
確認する 76

DVD

DVD を再生する

- 1 DVD のふだんの操作 80
- 2 ファンクションメニューの
切り換えかた 81

音の調節

音を調節する

- 1 オーディオ調整メニューの
切り換えかた 83
- 2 お好みの音の空間に設定する 84
- 3 前後左右の音量バランスを調節する 84
- 4 イコライザーカーブを選ぶ 85
- 5 イコライザーカーブを
大まかに補正する 85
- 6 イコライザーカーブを
細かく調節する 86
- 7 小さな音量でも聞きやすくする 87
- 8 サブウーファーを使う 87
- 9 サブウーファーの ON / OFF と
位相切り換え 88
- 10 サブウーファーのカットオフ
周波数選択とレベル調節 88
- 11 低い音を強調する 89
- 12 低い音を出力しないようにする 89
- 13 各ソースの音量を揃える 90
- 14 騒音に合わせて自動的に
音量を変える 90

テレビ

テレビを見る

- 1 テレビのふだんの操作 77
- 2 ファンクションメニューの
切り換えかた 78
- 3 チャンネル一覧から見たい
チャンネルを呼び出す 79

C O N T E N T S

初期設定

- 1 初期設定メニューの切り換えかた 91
- 2 時計を合わせる 92
- 3 フロントパネルの外し忘れを警告する 92
- 4 フロントパネルを外しやすくする 93
- 5 外部機器（AUX）の音声を聞けるようにする 93
- 6 夜間のディスプレイの明るさを切り換える 94
- 7 ディスプレイの明るさを調節する 95
- 8 リアスピーカー出力を設定する 95
- 9 RCA出力から出力される信号を選ぶ 96
- 10 ミュート／アッテネートを切り換える 96
- 11 フィチャーデモをON／OFFする 97
- 12 リバースモードをON／OFFする 97
- 13 スクロールの設定を切り換える 98
- 14 Bluetooth オーディオソースをONにする 98
- 15 Bluetoothのパスコードを変更する 99

すぐに使いたいときは、
ここをお読みください。

すぐ使えます
ここだけ読めば

はじめに ●●●●●●●●●●

CDを聞く ●●●●●●●●●●

ラジオを聞く ●●●●●●●●●●

USB 機器を聞く ●●●●●●●●●●

iPodを聞く ●●●●●●●●●●

BT AUDIOを聞く ●●●●●●●●●●

携帯電話を使う ●●●●●●●●●●

テレビを見る ●●●●●●●●●●

DVDを再生する ●●●●●●●●●●

音を調節する ●●●●●●●●●●

初期設定 ●●●●●●●●●●

便利な機能 ●●●●●●●●●●

その他（付録） ●●●●●●●●●●

便利な機能

- 1 瞬時に音量を小さくする 100
- 2 時計を表示する 100
- 3 よく使う機能を直接操作する 101
- 4 交通情報を受信する 101
- 5 エンタテインメントを表示する 102
- 6 外部機器の名称を入力する 103

その他

その他（付録）

- 1 CDの正しい使いかた 104
- 2 USB 機器について 106
- 3 iPodについて 107
- 4 WMA／MP3／AAC／WAV
ファイルについて 108
- 5 故障かな？と思ったら 112
- 6 こんなメッセージが表示されたら 114
- 7 保証書とアフターサービス 117
- 8 おもな仕様 118

お買い上げ後すぐにお使いになりたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目をお読みください。CD やラジオなどの基本的な操作方法を説明しています。

基本操作以外の便利な機能については、「CD を聞く」や「ラジオを聞く」、「音を調節する」など、それぞれの項目をお読みください。

マークについて



注意マーク

安全のために必ず守っていただきたいこと、本機を操作するときの注意事項、性能を維持するための注意事項について説明しています。



用語説明マーク

操作や機能などの用語について説明しています。



メモマーク

操作上のヒント、便利な使い方などについて説明しています。



CD マーク

内蔵CDでCDを再生するときの操作方法を説明しています。



CD-ROM マーク

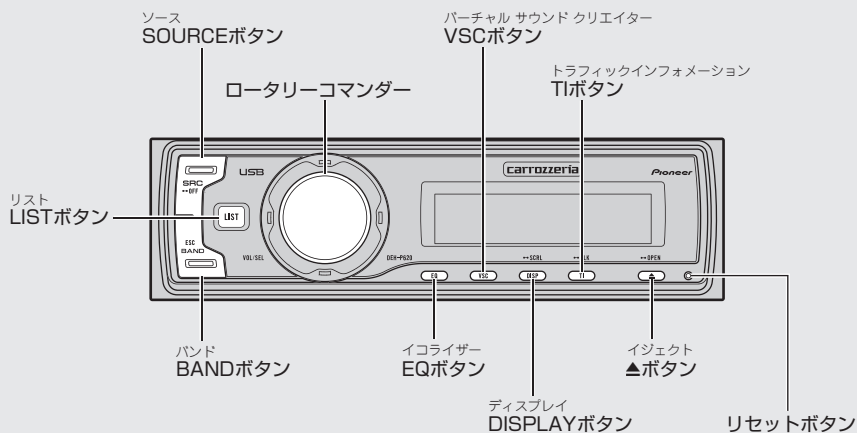
内蔵CDでWMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを再生するときの操作方法を説明しています。



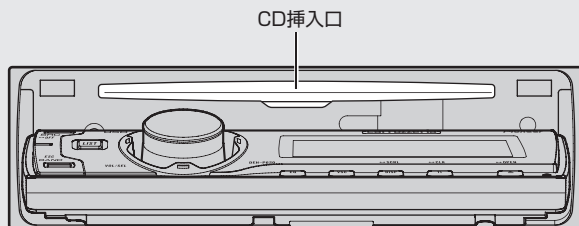
マルチ CD マーク

別売のマルチCDを本機に接続して使用するときの操作方法を説明しています。

本体（クローズ時）



本体（オープン時）

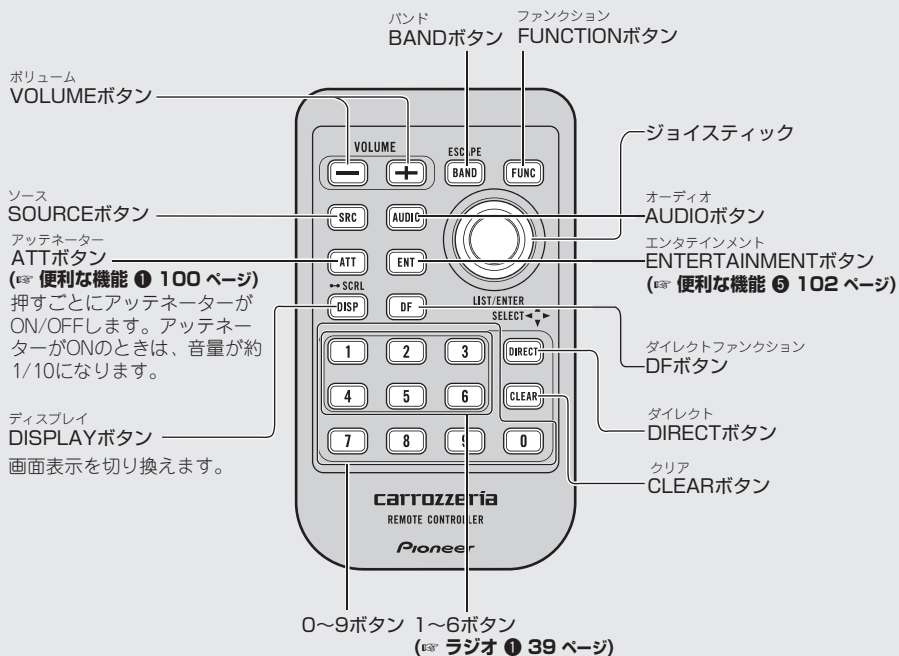


ロータリーコマンダーとは

- 「回す」・「中心を押す」・「上、下、左、右に操作する」の3つの操作を行うことで、本機のさまざまな機能を使うことができます。

リモコン

本体と同じなまえのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。



DF ボタンとは

- ソースごとにあらかじめ登録されている機能（ポーズやBSMなど）を直接操作できます。
(※ 便利な機能 ④ 101 ページ)



ジョイスティックとは

- 本体のロータリーコマンドーと同様の操作ができます（ただし、ロータリーコマンドーを回す操作には対応していません）。中心を押した場合は、本体のLISTボタンと同じ操作になります。

ディスプレイ

ソース表示

ソースインジケーター

聞いているソース名を表示します。

ソース情報表示部1

バンド、ステレオインジケーター、プリセットチャンネル番号（ラジオ）
トラック番号（オーディオCD）
ファイル種類、フォルダー番号、トラック番号（WMA/MP3/AAC/WAV）
ディスク番号、トラック番号（マルチCD）

ソースアイコン

聞いているソースをアイコンで表示します。

S/Wインジケーター

サブウーファーがONのときに点灯します。

BASSインジケーター

バスプースターのレベルを表示します。



ソース情報表示部2

周波数（ラジオ）
再生経過時間（オーディオCD、マルチCD）
ビットレート、再生経過時間（WMA/MP3/AAC）
サンプリング周波数、再生経過時間（WAV）
各種設定内容（ファンクション・オーディオ・初期設定）
などを表示します。

ガイド表示（ファンクション・オーディオ・初期設定）



ガイド表示

現在、有効なロータリーコマンドの操作が点灯します。

表示例 内容



ロータリーコマンドの中心を押して操作できます。



上下左右にロータリーコマンドを押して操作できます。また、ロータリーコマンドの中心を押しての操作もできます。

USB 機器コントロール対応



ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときにUSB機器のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

本機は、USB インターフェース付きのポータブルオーディオプレーヤーを操作できます。対応するUSB機器については（[☞ その他 ② 106ページ](#)）

- 本機は、USB ポータブルオーディオプレーヤーやUSB Mass Storage Class対応のUSBメモリーに収録されているWMA/MP3/AACファイルを再生できます。対応する圧縮ファイルについては（[☞ その他 ④ 108ページ](#)）

iPod コントロール対応



ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときにiPodのデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

本機は、Dockコネクタまたは、USBインターフェースのあるiPodを、本機のUSBインターフェースに接続して操作できます。

- Dockコネクタ付きiPodを接続する場合、iPod Dockコネクタ（USB 2.0ケーブル用）が必要です。（別売のインターフェースケーブル（例：「CD-IU50」）で接続することもできます。）

- 以下の条件を満たすiPodが使用できます。
 - iPod nano または第五世代以降の iPod
 - iPod ソフトウェア 1.2以降（第2世代の iPod nano の場合、1.0.1以降）
- 上記以前のiPodは、当社のiPodアダプター（例：「CD-IB10II」）と組み合わせると、本機から操作できます。この場合、ほとんどの機能は、本機のUSBインターフェースに接続したiPodと同様に操作できます。ただし、Podcastやオーディオブックに関する機能は、操作できません。
- iPodは、米国およびその他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。



メモ

- iPod接続時のご注意やiPodの設定については（[☞ その他 ⑥ 107ページ](#)）

WMA について



外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって、開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

MP3 について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。

詳細は、インターネット上のホームページ
<http://www.mp3licensing.com>
をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、インターネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

AAC について

AAC データは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。

本機では、Ver. 6.0.5 以前の iTunes を使用してエンコードされた AAC ファイルの再生に対応しています。

本機は、iTunes で作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルを、AAC ファイルとして再生します。故障の原因となりますので、(.m4a) 以外の拡張子の付いた AAC ファイルを再生しないでください。

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。

「CD TEXT」 について

「CD TEXT」は、CD のタイトル／歌手名／曲名などの文字情報が記録された CD です。ディスクタイトル面に下記マークの付いている CD は、「CD TEXT」です。（下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。）



50 枚型マルチ CD プレーヤーの使用について

本機では、50 枚型マルチ CD プレーヤーの取扱説明書に記載されている 50 枚型マルチ CD プレーヤー特有の機能は操作できません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。また、ディスクリストには切り換わりません。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON（または ACC）にしないでください。バッテリーが上がる恐れがあります。



ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリーは（**☞ ラジオ ① 39 ページ**）、時計調整は（**☞ 初期設定 ② 92 ページ**）を参照して、再設定してください。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

はじめに 4 デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。



ご注意

- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON（またはACC）のときに本機の電源をOFFにしてBANDボタンを押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能（ファンクションやエンタテインメントなど）の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときにDISPLAYボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態でフィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

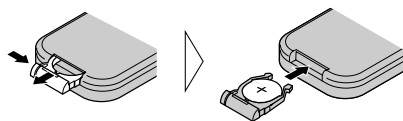
はじめに 5 リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池（CR2025）を⊕側を上にしてセットします。

初めてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただくことができます。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。



リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

本機のリセットについて

リセット

本機を初期設定状態に戻すことができます。

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

- 接続が終わった後。
- 本機が正しく動作しないとき。
- ディスプレイが正しく表示されないとき。

リセットボタンを押すと、本機の登録内容（時計やラジオのプリセットなど）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

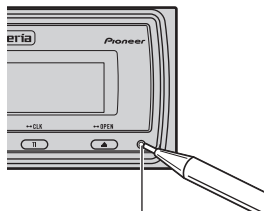


ご注意

- 本機をリセットする前に、フロントパネルを閉めておいてください。（CDを挿入口に差したままにしないでください。）
- フロントパネルを開けたままリセットすると、自動的にフロントパネルが閉じます。

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



リセットボタン

はじめに

7

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。



フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルが固定されている場合は、フロントパネル固定ネジを外してから、フロントパネルを取り外してください。
- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- フロントパネルの端子部分に異物が接触しないようにしてください。故障の原因となります。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合、フロントパネルおよび本体の端子部を触らないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。

フロントパネルの取り外しかた

1 フロントパネルを開ける

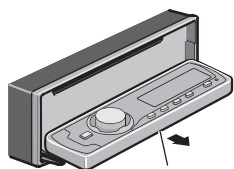
▲ ボタンを長く押す

フロントパネルが開きます。

2 フロントパネルを取り外す

リリース部を持ち、フロントパネルを手前に引く

フロントパネルが外れます。



リリース部

数秒後に中ボタンが自動的に閉まります。このとき、指などを挟み込まないように注意してください。

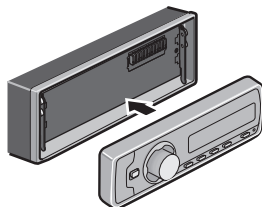
3 フロントパネルを保管する

付属のフロントパネル保護ケース（フェイスパネルケース）にフロントパネルを入れる

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを取り付ける

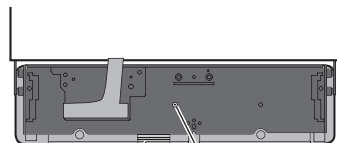
フロントパネルを本体に“カチッ”と音がするまで押し込む



フロントパネルの固定のしかた

1 フロントパネルを固定する

フロントパネルを開けた状態で、固定ネジを使って、フロントパネルを中ブタに取り付ける

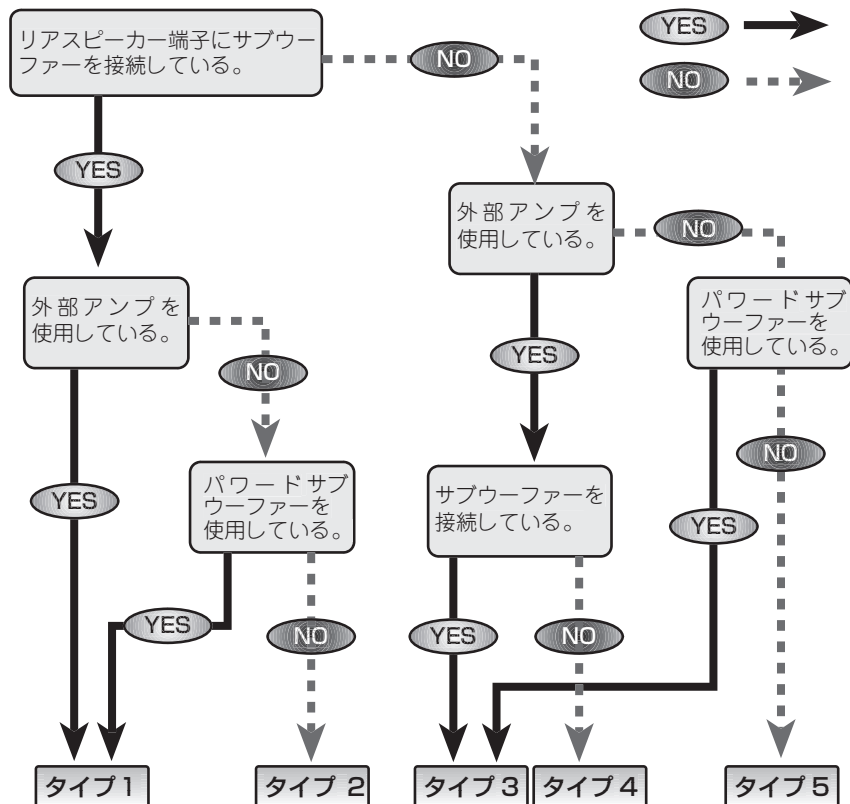


リリース部 固定ネジ

サブウーファーの設定について




本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができます。

サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせて、サブウーファーを正しく設定してください。






タイプ 1

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。
- ※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。





1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を Rear SP:S/Wにする
( **初期設定 ⑧ 95 ページ**)
2. オーディオ調節メニューで、Sub W.1 をONにする
( **音の調節 ⑨ 88 ページ**)
3. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
( **音の調節 ① 83 ページ**)

タイプ 2

1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を Rear SP:S/Wにする
( **初期設定 ⑧ 95 ページ**)
2. オーディオ調節メニューで、Sub W.1 をONにする
( **音の調節 ⑨ 88 ページ**)
3. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
( **音の調節 ① 83 ページ**)

タイプ 3

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。
- ※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を Rear SP:F.Rangeにする
( **初期設定 ⑧ 95 ページ**)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を Subwooferにする
( **初期設定 ⑨ 96 ページ**)
3. オーディオ調節メニューで、Sub W.1 をONにする
( **音の調節 ⑨ 88 ページ**)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う
( **音の調節 ① 83 ページ**)

タイプ 4

- ※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。
- ※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターをOFFに設定する。

1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を Rear SP:F.Rangeにする
( **初期設定 ⑧ 95 ページ**)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を Rearにする
( **初期設定 ⑨ 96 ページ**)
3. オーディオ調節メニューで、Sub W.1 をOFFにする
( **音の調節 ⑨ 88 ページ**)

タイプ 5

1. 初期設定メニューで、リアスピーカー出力の設定を Rear SP:F.Rangeにする
( **初期設定 ⑧ 95 ページ**)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を Rearにする
( **初期設定 ⑨ 96 ページ**)
3. オーディオ調節メニューで、Sub W.1 をOFFにする
( **音の調節 ⑨ 88 ページ**)

ここでだけ

1

基本的な操作

1 電源を ON にする

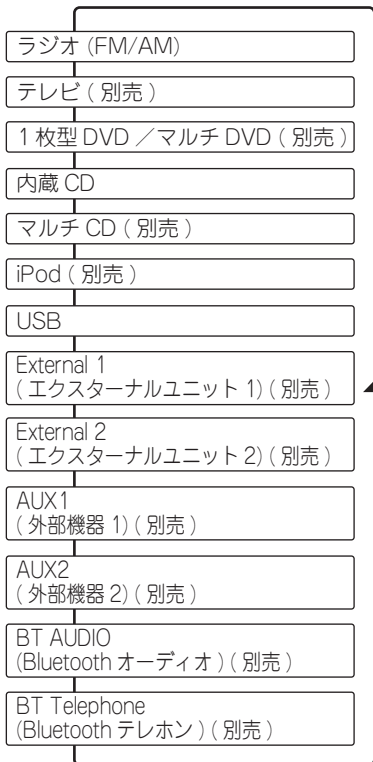
SOURCE ボタンを押す

本機の電源がONになります。

2 ソースを切り換える

SOURCE ボタンを押す

SOURCE ボタンを押すごとに、次の順序でソースが切り換わります。



3 音量を調節する

ロータリーコマンドを回す

大きくするとき：右に回す

小さくするとき：左に回す

●4秒間、音量が表示されます。

4 電源を切る

SOURCE ボタンを長く押す

本機の電源が切れます。



ソースとは

- SOURCE ボタンを押すと切り換わる、内蔵 CD やラジオなどの音源のことです。



External (エクスターナルユニット) とは

- 本機にソースとして認識されないパイオニア製品 (将来発売される製品など) を、エクスターナルユニットと呼びます。本機は、エクスターナルユニットを計2台まで接続してコントロールできます。2台のエクスターナルユニットを接続した場合、それぞれのユニットは External1、External2 ソースとして自動的に認識されます。表示は、どちらを選んだ場合も「External」になります。



知っていると便利

- リモコンの VOLUME ボタンを押して音量を調節することもできます。



メモ

- 接続していないソースには切り換わりません。
- 音量の調整範囲は 0 ~ 62 です。
- ディスクを CD 挿入口に差し込んだときも、電源が ON になります。
- ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- AUX (外部機器) の設定 (※ 初期設定 ⑤ 93 ページ) を ON にしないと、AUX1 / AUX2 には切り換わりません。
- AUX1 は初期設定では ON に設定されています。使用しない場合は OFF に設定してください。(※ 初期設定 ⑤ 93 ページ)
- 本機の青リード線 (アンテナコントロール) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- CD をセットしたまま電源を OFF にすることもできます。
- 電源が OFF のときでも、EJECT ボタンを押して CD を取り出すことができます。
- 時計を表示させている場合、電源を OFF にしても時計は表示されます。

テレビ、1 枚型 DVD、マルチ DVD を接続したときは

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書もご覧ください。

テレビ (例: 「AVX-P7」) や 1 枚型 DVD (例: 「SDV-P7」)、マルチ DVD (例: 「XDV-P70」) などの取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作を説明している場合があります。その製品と対応しているボタンで操作します。

ここだけ読めば
すぐ使えます

ここだけで **2** CDのふだんの操作

画面例



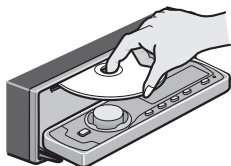
1

CDを再生する

CD CD-ROM



▲ ボタンを押して、フロントパネルを開き、CDをCD挿入口に差し込む



自動的にフロントパネルが閉まり、CDの再生が始まります。

M-CD



ソースがマルチCDになるまで、SOURCE ボタンを押す

2

フォルダー（ディスク）を選ぶ

CD-ROM M-CD



ロータリーコマンドを上下に操作する

次のフォルダー（ディスク）を選ぶ：
上に操作する

前のフォルダー（ディスク）を選ぶ：
下に操作する

3

曲を選ぶ（または早送り／早戻しする）

CD CD-ROM M-CD



ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する

前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける

早戻し：左に操作し続ける

4

他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

CD CD-ROM M-CD



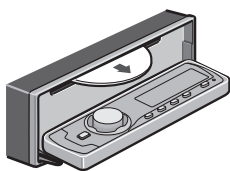
再生が終わります

5 CDを取り出す



▲ ボタンを押す

CDが出てきて、自動的に電源OFFになります。



CDを取り出して、▲ ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

📌 ご注意

- ディスクはタイトル面を上にして差し込みます。
- CD挿入口には、CD以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- CDシングル(8cm CD)もアダプターなしで再生できます。アダプターは絶対に使用しないでください。
- 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10曲飛びに選曲されます。(※ CD ⑧ 32ページ)
- 出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。CD挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。



知っている则便利

- ソースがマルチCDの場合、リモコンの1～6ボタンを押して、聞きたいCDを選ぶこともできます。7～12枚目のCDを選ぶ場合は、1～6ボタンを長く押しします。
- WMA／MP3／AAC／WAV再生時は、BANDボタンを長く押しすと、フォルダー01 (ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー01 (ROOT)にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源をOFFにしたり他のソースに切り換えることができます。
- WMA／MP3／AAC／WAVファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、切り換えて再生できます。切り換えるときは、BANDボタンを押します。再生は、それぞれ一番先頭の曲から始まります。



メモ

- 「CD TEXT」や「CD-ROM」など、文字情報が記録されたディスクでは、ディスクタイトル、曲名などを表示できます(※ CD ④ 36ページ)。表示を切り換えている場合は、ディスクを挿入したときや、他のソースから内蔵CDに切り換えたときなどに、タイトルを自動的にスクロール表示します。「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)に「CD TEXT」をセットしているときも、ソースをマルチCDに切り換えると、タイトルを自動的にスクロール表示します。
- WMA／MP3／AAC／WAVファイルを早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR(可変ビットレート)で録音されたWMA／MP3／AAC／WAVファイルを早送り／早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読みとります。この間、画面には「Format read」と表示されます。
- マルチCDが準備動作(CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど)をしている場合があります。このとき、ソースをマルチCDに切り換えると、「Ready」と表示されます。
- マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、「No Magazine」と表示されます。

ここだけで **3** ラジオのふだんの操作

バンドを選ぶ/選局

画面例



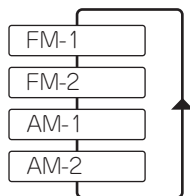
1 ソースをラジオにする

ソースがラジオになるまで **SOURCE** ボタンを押す

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

BAND ボタンを押すごとに、次の順序でバンドが切り換わります



3 放送局を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 手動で選ぶとき (手動選局)

高い周波数の放送局を選ぶ：
右に操作する

低い周波数の放送局を選ぶ：
左に操作する

■ 自動で選ぶとき (自動選局)

高い周波数の放送局を自動で選ぶ：
右に長く操作して離す

低い周波数の放送局を自動で選ぶ：
左に長く操作して離す

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

ラジオの受信が終わります



知っていると便利

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます。
- ロータリーコマンドを左右に操作している間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

聞きたい曲を直接選べます。

1 リモコンのDIRECT ボタンを押す

曲番号入力画面が表示されます

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの0～9 ボタンを押す

- リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去できます。

3 リモコンのDIRECT ボタンを押す

選んだ曲が再生されます



メモ

- WMA / MP3 / AAC / WAV 再生時は、再生しているフォルダー内の曲（ファイル）だけ選べます。
- 曲番号入力画面は、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

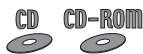
メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります





知っていると便利

- リモコンのFUNCTIONボタンを押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BANDボタンを押します。(タイトル入力やITS登録を選んでいるとき以外は、30秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)
- WMA / MP3 / AAC / WAVファイルを再生しているときは、タイトル入力は選べません。
- 「CD TEXT」には、タイトルを入力できません。「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力は選べません。

繰り返し再生する

リピート

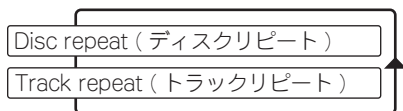
曲を繰り返し（リピート）再生できます。繰り返しの範囲は、今聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲は、ソースやディスクによって異なります。

1 再生範囲切換にする

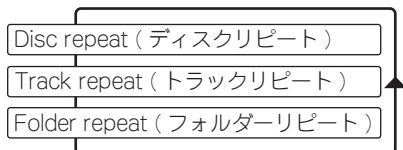
ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で再生範囲が切り換わります



CD-ROM



M-CD



ディスクリピート：

今聞いているディスクを繰り返し再生します。

トラックリピート：

今聞いている曲を繰り返し再生します。

フォルダーリピート：

今聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

マルチCDリピート：

マルチCDにセットされているすべてのディスクを繰り返し再生します。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります





メモ

- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲（WMA／MP3／AAC／WAV）だけを再生します。サブフォルダー内の曲は、再生しません。

曲やCDを順不同（ランダム）に再生できません。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいたときに便利です。

1 ランダム再生する範囲を選んでおく

ランダムプレイは、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます（ CD 

2 ランダムプレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

ランダムプレイ設定がONになります

次の曲から、ランダムに再生されます。もう一度押すと、OFFになります。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります





メモ

- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
CD / マルチCD : ディスクリピート
WMA / MP3 / AAC / WAV : フォルダーリピート

曲やフォルダー、ディスクのはじめの部分だけを、約10秒ずつ再生できます（スキャン再生）。聞きたい曲やフォルダー、ディスクを探すときに便利です。

1 スキャン再生する範囲を選んでおく

スキャンプレイは、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます（ CD 

■ 聞きたい曲を探すとき （トラックスキャン再生）

選んだ再生範囲内のすべての曲を、約10秒ずつ再生します。

- CD再生時は、ディスクリピートに切り換えます。
- WMA / MP3 / AAC / WAV再生時は、フォルダーリピートに切り換えます。

■ 聞きたいフォルダーを探すとき （フォルダースキャン再生）

再生中のディスクの全フォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生します。

- WMA / MP3 / AAC / WAV再生時に、ディスクリピートに切り換えます。

■ 聞きたいディスクを探すとき （ディスクスキャン再生）

マルチCD内のすべてのディスクの1曲目だけを、約10秒ずつ再生します。

- ソースがマルチCDのときに、マルチCDリピートに切り換えます。

2 スキャンプレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

次のページへ続く

<つづき>

スキャン

3 ロータリーコマンドを押す

スキャンプレイ設定がONになります

曲やフォルダー、ディスクのはじめの約10秒間が次々に再生されます。

- スキャンプレイを始めて30秒たつと、ふだんの再生画面に自動で戻ります。

4 聞きたい曲やフォルダー、ディスクが再生されたら、ロータリーコマンドを押す

スキャンプレイ設定がOFFになります

- ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作でスキャンプレイ設定を選びます。次に、ロータリーコマンドを押すと、スキャンプレイ設定がOFFになります。

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- スキャンプレイを始めた曲（フォルダー／ディスク）まで戻ると、スキャンプレイは解除されます。
- 再生範囲がトラックリピートのときにスキャンプレイ設定をONにすると、再生範囲が次のように切り換わってスキャンプレイが行われます。
CD／マルチCD：
ディスクリピート
WMA／MP3／AAC／WAV：
フォルダーリピート

CD
6

再生を一時停止する

ポーズ

曲の再生を一時停止できます。

1 ポーズ設定にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドを押す

再生を一時停止します

もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

再生しているCDの音質に簡単な補正をかけ、より聞きやすい音に調節できます。

内蔵CDの場合

COMPとBMXの2つの機能を使って、CDの音質を手軽に調節できます。COMPはクラシックなど音量差の大きい曲に、BMXは圧縮された音楽データに対して効果的です。

マルチCDの場合

COMPとDBEの2つの機能を使って、CDの音質を手軽に調節できます。COMPは内蔵CDのCOMP機能と同じ効果があります。DBEは、音楽の低音域を押し上げる効果があります。



注意

- COMP (DBE) 機能のないマルチCDを組み合わせたときは、「No COMP」が表示され、操作できません。



COMPとは

- COMPは、「Compression (コンプレッション)」の略です。大きな音と小さな音の音量差 (ダイナミックレンジ) を小さくします。



BMXとは

- BMXは、「Bit Metrix (ビット メトリックス)」の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善します。



DBEとは

- DBEは、「Dynamic Bass Emphasis (ダイナミック バス エンファシス)」の略です。車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

1 コンプレッション設定にする

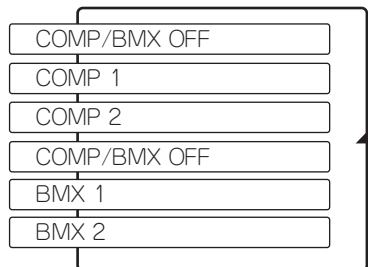
ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2

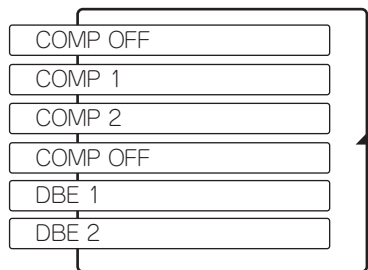
ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で設定が切り換わります

CD CD-ROM



M-CD



3

BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- COMP、BMX、DBEは1より2の方が効果が大きくなります。

CD
8

10曲飛びに選曲する

ラフサーチ

内蔵CDの機能です。

10曲以上収録されているディスクまたはフォルダーの場合、10曲飛びに選曲できません。

1 ラフサーチ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 Rough searchにする

ロータリーコマンドーを押す

もう一度押すと、FF/REV（早送り/早戻し）に切り換わります。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

4 ロータリーコマンドーを左右に長く操作する

10曲ごとに選曲できます

10曲先を選ぶとき：右に長く操作する

10曲前を選ぶとき：左に長く操作する



メモ

- 曲数が10曲以下のディスクでラフサーチをする時、最初または最後の曲が選択されます。残りが10曲以下のときに、ラフサーチをした場合も同様です。

CD
9

聞きたい曲を指定する

マルチCD（別売）の機能です。

聞きたい曲だけを再生するために、再生する曲をあらかじめ指定しておきます。



ITSとは

- ITSは、「Instant Track Selection（インスタントトラックセレクション）」の略です。指定した曲だけを再生できます。ITSの指定は、ITS解除を行うまで有効です（※ CD ⑩ ⑪ 34ページ）。

1 ロータリーコマンドーを上下に操作する

指定したい曲の入ったCDを再生する

2 ITS登録にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

指定したい曲を選ぶ

4 ロータリーコマンドーを上操作する

選択した曲が指定されます

「Memory complete」が2秒間表示され、指定が完了したことを知らせます。

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ換えても、曲の指定は解除されません。
- CD1枚につき、99曲まで指定できます。(「CDX-P1250」、「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDプレーヤーでは、指定できる曲は24曲目までになります。)
- ITSは、タイトル入力 (☞ CD ⑩ 35ページ) と合わせて、CD100枚分の指定ができます。
- 100枚を超えたときは、一番古い指定内容が解除されて、新しいCDの曲が指定されます。

マルチCD (別売) の機能です。

ITS 指定 (☞ CD ⑨) で指定した曲だけを再生できます。

1 ITS 再生する範囲を 選んでおく

ITS 再生は、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます (☞ CD ⑥ 28ページ)

2 ITS プレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

ITS 再生が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 手順1で選んだ再生範囲に、指定した曲がない場合は、「ITS empty」が2秒間表示され、ITS再生は始まりません。

CD
11

曲の指定を1曲ずつ解除する

ITS解除

マルチCD（別売）の機能です。

ITS指定（ CD ⑨ 32ページ）で指定した曲を1曲ずつ解除できます。

1 ITS再生をONにする

( CD ⑩ 33ページ)

2 ロータリーコマンダーを左右に操作する

指定を解除したい曲を再生する

3 ITS登録にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

4 ロータリーコマンダーを下に操作する

再生していた曲の指定が解除され、次に指定されている曲が再生されます

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 現在の再生範囲に、ITS指定された曲がなくなった場合は、「Memory deleted」が2秒間表示され、ITS再生がOFFになります。

CD
12

曲の指定をCDごとに解除する

ITS解除

マルチCD（別売）の機能です。

ITS指定（ CD ⑨ 32ページ）で指定した曲をCDごとに解除できます。

1 ITS再生をOFFにする

( CD ⑩ 33ページ)

2 ロータリーコマンダーを上下に操作する

指定を解除したいCDを再生する

3 ITS登録にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

4 ロータリーコマンダーを下に操作する

再生していたCDの曲の指定が解除されます

「Memory deleted」が2秒間表示され、指定が解除されたことを知らせます。

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

CDのタイトルを入力して、本機に登録できません。登録したタイトルは、本機のディスプレイに表示できます。



ご注意

- 「CD TEXT」(※ はじめに ③ 13 ページ) を再生しているときや、タイトル入力機能のないマルチCDを組み合わせたときは、操作できません。

1 タイトル入力したいCDを再生します

2 タイトル入力にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

3 DISPLAY ボタンを押す

DISPLAY ボタンを押すごとに、次の順序で文字の種類が切り換わります

アルファベットの大文字・数字・記号 (!, #, & など)・空白 ()

アルファベットの小文字・空白 ()

数字・記号 (!, #, & など)・空白 ()

カタカナ・音引き (ー)・空白 ()

拗促音 (ア、ヨ、ツなど)・濁点・半濁点・空白 ()

4 ロータリーコマンドーを上下左右に操作する

■ 入力したい文字を選ぶとき

次の文字を選ぶ：上に操作する

前の文字を選ぶ：下に操作する

■ 入力したい位置にカーソルを移動するとき

右に移動する：右に操作する

左に移動する：左に操作する

5 ロータリーコマンドーを右に操作する

10文字目を点滅させる

6 10文字目が点滅しているときに、ロータリーコマンドーを右に操作する

入力したタイトルが登録されます

入力位置の点滅が終わると、入力したタイトルが登録されます。

7 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

- タイトル入力中（文字が点滅しているとき）にBAND ボタンを押すと、タイトル入力画面が解除されて、ふだんの再生画面に戻ります。（入力中のタイトルは登録されません。）



メモ

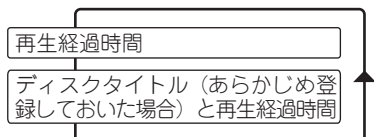
- タイトルは、10文字まで入力できます。
- 内蔵CDには、CD48枚分のタイトルを登録できます。
- マルチCDには、ITS (※ CD ⑨ 32 ページ) と合わせて、CD100枚分のタイトルを登録できます。
- 48枚（マルチCD接続時は、100枚）を超えたときは、一番古いCDのタイトルが消されて、新しいCDのタイトルが登録されます。
- CDを取り出しても、登録したタイトルは削除されません。

トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示させることもできます。

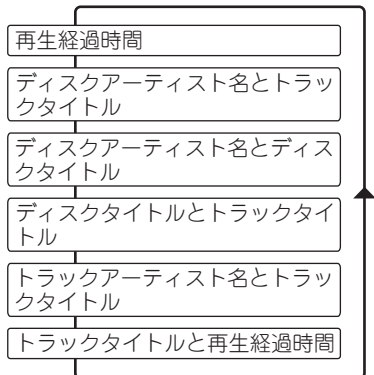
1 DISPLAY ボタンを押す

DISPLAY ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります

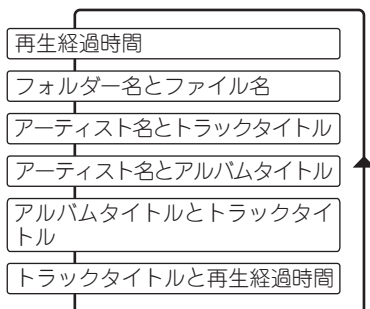
CD M-CD (CD-DA 再生時)



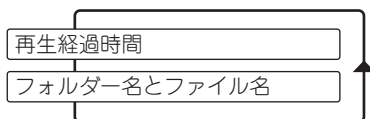
CD M-CD (「CD TEXT」再生時)



CD-ROM (WMA/MP3/AAC再生時)



CD-ROM (WAV再生時)



知っている则便利

- 隠れている文字を表示させるには、DISPLAY ボタンを長く押します。



メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- MP3 ファイルや AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。

CD
15

タイトルを見て聞きたいCDをさがす

ディスクリスト

マルチCD（別売）の機能です。

CDのタイトル一覧（ディスクリスト）を見ながら、聞きたいCDを選べます。

1 LIST ボタンを押す

ディスクリストが表示されます

2 ロータリーコマンドーを回す


ロータリーコマンドーを回すごとにCDのタイトルが切り換わります

次のCDを選ぶとき：右に回す

前のCDを選ぶとき：左に回す

3 聞きたいCDが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだCDが再生されます

- 「CD TEXT」を選ぶ場合、ロータリーコマンドーを右に操作すると、トラックリスト（ CD ⑫）を表示できます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



知っていると便利

- ロータリーコマンドーを上下に操作して、聞きたいCDを選ぶこともできます。



メモ

- 再生中のCDは反転表示されます。
- マガジンにCDがセットされていないときは、「No Disc」と表示されます。また、タイトルが入力されていないCDでは、「No D.Title」と表示されます。
- ディスクリストは、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

CD
16


曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧（トラックリスト）を見ながら、聞きたい曲を選べます。

1 LIST ボタンを押す

トラックリストが表示されます

- マルチCDの場合、ディスクリスト（ CD ⑫）が表示されます。ディスクリストの手順1～3を行って、「CD TEXT」のトラックリストを表示します。

2 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに曲名が切り換わります

次の曲を選ぶとき：右に回す

前の曲を選ぶとき：左に回す

3 聞きたい曲が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ曲が再生されます

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



知っていると便利

- ロータリーコマンドーを上下に操作して、聞きたい曲を選ぶこともできます。



メモ

- 再生中の曲は反転表示されます。
- 「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、「No T. Title」が表示されます。
- トラックリストは、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

WMA／MP3／AAC／WAV再生中に、ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。

1 LIST ボタンを押す

フォルダー／ファイルリストが表示されます

2 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとにフォルダー名やファイル名が切り換わります

次のフォルダー（ファイル）を選ぶとき：
右に回す

前のフォルダー（ファイル）を選ぶとき：
左に回す



選んでいるフォルダーの中に収録されているフォルダーや曲（ファイル）の数を表示します。

3 聞きたいファイルが入っているフォルダーが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを右に操作する

選んだフォルダーに収録されているフォルダーやファイルのリストが表示されます

4 聞きたいファイルが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す

選んだファイルが再生されます

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



知っているとお便利

- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたいファイル名やフォルダー名を選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドを左に操作すると、1つ前のリスト（1階層上のフォルダー）に戻ります。
- フォルダーが中央に表示されているときにロータリーコマンドを押すと、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。



メモ

- 再生中のファイルやフォルダーは反転表示されます。
- フォルダー／ファイルリストは、必ず「ROOT」から表示されます。
- ディスク内に再生できるファイルがない場合、「No Audio」が表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンドを押しても再生しません。
- リスト表示中のフォルダー番号は、実際の番号とは異なります。
- フォルダー／ファイルリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- 収録ファイル数が多く、リスト番号が3桁になる場合は、下2桁だけが表示されます。

放送局を1局ずつ登録する

プリセットメモリー

よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます（プリセットメモリー）。登録した放送局は、手軽に受信できます。

1 BAND ボタンを押す

登録するバンドを選ぶ

2 ロータリーコマンドを左右に操作する

登録したい放送局を選ぶ

3 リモコンの1～6ボタンの1つを長く押す

放送局が登録されます

登録動作中に押したボタンの番号（登録番号）が点滅します。

登録が完了すると登録番号の点滅が終わり、その放送局を受信します。

登録した放送局を呼び出す

プリセットチューニング

BSMやプリセットメモリーで登録した放送局を、手軽に受信できます。

1 BAND ボタンを押す

放送局を登録したバンドを選ぶ

2 登録した放送局を受信する

■ プリセット番号を指定して受信するとき

リモコンの1～6ボタンの1つを押す

■ プリセット番号順に受信するとき

ロータリーコマンドを上下に操作する

ファンクションメニューの切り換えかた

「複数の放送局を自動的に登録する」「放送局名を選ぶ」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



知っていると便利

- リモコンのFUNCTIONボタンを押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- ふだんの受信画面に戻るときは、BANDボタンを押します。(30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

使いたい機能を選ぶ

1

ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2

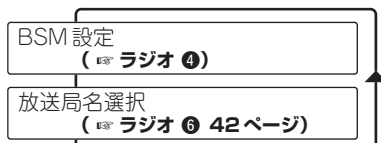
ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3

ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります



複数の放送局を自動的に登録する

BSM

受信状態の良い放送局を自動で探して登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます。



BSMとは

- BSMは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。

1 BAND ボタンを押す

登録するバンドを選ぶ

2 BSM 設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

BSMによる登録が始まります

登録が完了するとステーションリストに切り換わり、1の番号に登録された放送局を受信します。

- 登録動作中にロータリーコマンドーを押すと、BSMの登録処理を途中でやめることができます。

4 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに放送局が切り換わります

次の放送局を選ぶとき：右に回す

前の放送局を選ぶとき：左に回す

5 聞きたい放送局が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局が受信されます

6 BAND ボタンを押す

ふだんの受信画面に戻ります



知っていると便利

- バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行先などで、どんな放送局があるか知らない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSMを使うと便利です。バンド1に登録した放送局を消さずに、バンド2でその地域の放送局を受信できます。



メモ

- 受信状態のよい放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。

ラジオ
5

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1～6の番号に登録した放送局を、放送局名の一覧（ステーションリスト）の中からさがすことができます。

1 BAND ボタンを押す

バンドを選ぶ

2 LIST ボタンを押す

ステーションリストが表示されます

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに放送局名が切り換わります

次の放送局を選ぶとき：右に回す

前の放送局を選ぶとき：左に回す

4 聞きたい放送局が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局が受信されます

5 BAND ボタンを押す

ふだんの受信画面に戻ります



知っていると便利

- ロータリーコマンドーを長く押しと、中央に表示されている登録番号に、現在受信している放送局を登録することができます。



メモ

- 受信中の放送局名は反転表示されます。
- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。(※ ラジオ 6)
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。
- ステーションリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ラジオ
6

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局の放送局名を選べます。表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更することができます。



ご注意

- 本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

放送局名を選ぶ

次の放送局名を選ぶとき：右に操作する

前の放送局名を選ぶとき：左に操作する

3 ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局名に変更されます

4 BAND ボタンを押す

ふだんの受信画面に戻ります



知っていると便利

- 放送局名を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選びます。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせるため、放送局名を「FM M-CD」に変更できます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を「FM TVsound」に変更できます。



メモ

- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、「No data」と表示されます。

放送局名を表示する

放送局名表示

受信している放送局の放送局名を表示できません。

1

DISPLAY ボタンを押す

放送局名が表示されます

もう一度押すと放送局名表示が消えます。



知っていると便利

- 表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更できます。(※ ラジオ ⑥)



ご注意

- 対応するUSB 機器をご使用ください。ただし、対応するUSB 機器でも正しく動作しない場合があります。(※ **その他 ② 106 ページ**)
- USB 機器が接続されていない場合、ソースをUSB に切り換えると、「No Device」と表示されます。USB 機器の接続方法は(※ **取付説明書**)
- プレイリストの再生中は、フォルダーは選べません。

(画面例)



1 ソースをUSBにする

SOURCE ボタンを押す

2 ロータリーコマンドを上下に操作する

フォルダーが切り換わります

次のフォルダーを選ぶとき：上に操作する
前のフォルダーを選ぶとき：下に操作する

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に長く操作する
早戻し：左に長く操作する



4 USB 機器の再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする



知っているると便利

- USB 機器は、いつでも本機から取り外すことができます。再生中に取り外すと、「No Device」と表示されます。
- BAND ボタンを長く押しすと、フォルダー 01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- プレイリストの再生を解除するには、以下の方法があります。
 - ー フォルダー／ファイルリストで、ファイルやフォルダー、別のプレイリストを選ぶ(※ **USB ⑤ 50 ページ**)
 - ー BAND ボタンを長く押し、ROOT に戻る
 - ー 再生範囲を切り換える(※ **USB ④ 47 ページ**)



メモ

- USB 機器にバッテリー充電機能がある場合、エンジンスイッチがACC または ON になっているときにUSB 機器のバッテリーが充電されます。
- USB ソースでは、接続したUSB 機器の情報を読みとる間、「Format read」と表示されます。USB 機器の情報を読みとるため、再生までに時間がかかります。

曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

今聞いているフォルダー内で聞きたい曲を直接選べます。



ご注意

- プレイリストの再生中は、ダイレクトサーチは操作できません。

1

リモコンのDIRECT ボタンを押す

曲番号入力画面が表示されます

2

聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの0～9 ボタンを押す

- リモコンのCLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去できます。

3

リモコンのDIRECT ボタンを押す

選んだ曲が再生されます



メモ

- 曲番号入力画面は、8秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

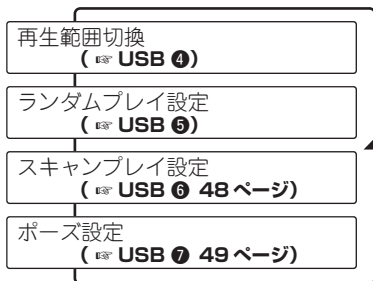
メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります



ご注意

- プレイリストの再生中は、「ランダムプレイ設定」「スキャンプレイ設定」は選べません。



知っている则便利

- リモコンのFUNCTION ボタンを押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

繰り返し再生する

リピート

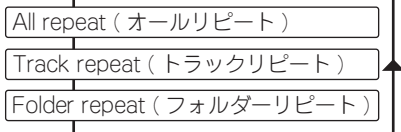
曲を繰り返し（リピート）再生できます。繰り返しの範囲は、今聞いている曲やフォルダーなどから選べます。

1 再生範囲切替にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で再生範囲が切り換わります



オールリピート：

すべての曲を繰り返し再生します。

フォルダーリピート：

今聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

トラックリピート：

今聞いている曲を繰り返し再生します。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- プレイリストの再生中は、「Playlists」が表示されません。

違う曲順で再生する

ランダム

曲を順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。



ご注意

- プレイリストの再生中は、「ランダムプレイ設定」は選べません。

1 ランダム再生する範囲を選んでおく

ランダムプレイは、再生範囲切替で選んだ範囲で行われます（USB ④）

2 ランダムプレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

ランダムプレイ設定がONになります

次の曲から、ランダムに再生されます。

もう一度押すと、OFFになります。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わってランダムプレイが行われます。

曲のはじめの部分だけを、約10秒ずつ再生できます（スキャン再生）。聞きたい曲を探すときに便利です。



ご注意

- プレイリストの再生中は、「スキャンプレイ設定」は選べません。

1 スキャン再生する範囲を選んでおく

スキャンプレイは、再生範囲切替で選んだ範囲で行われます（ USB ④ 47ページ）

■ 聞いているフォルダー内で聞きたい曲を探すとき

再生中のフォルダーのすべての曲を、約10秒ずつ再生します。再生範囲をフォルダーリピートに切り換えます。

■ USB機器全体から聞きたい曲を探すとき

USB機器に収録されているすべての曲を、約10秒ずつ再生します。再生範囲をオールリピートに切り換えます。

2 スキャンプレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

スキャンプレイ設定がONになります

曲の初めの約10秒間が徐々に再生されます。

- スキャンプレイを始めて30秒たつと、ふだんの再生画面に自動的に戻ります。

4 聞きたい曲が再生されたら、ロータリーコマンドーを押す

スキャンプレイ設定がOFFになります

- ふだんの再生画面に戻っていたら、まず手順2の操作でスキャンプレイ設定を選びます。次に、ロータリーコマンドーを押してください。スキャンプレイ設定がOFFになります。

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- 再生範囲がトラックリピートのときにスキャンプレイ設定をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わってスキャンプレイが行われます。

再生を一時停止する

ポーズ

曲の再生を一時停止できます。

1 ポーズ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

再生を一時停止します

もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

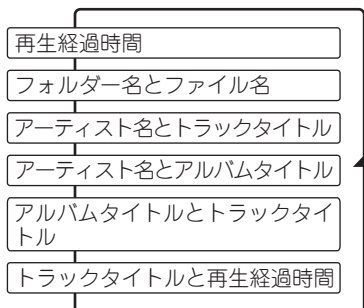
タイトルやアーティスト名を表示させる

タイトル表示

トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

1 DISPLAY ボタンを押す

DISPLAY ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります



知っている则便利

- 隠れている文字を表示させるには、DISPLAY ボタンを長く押します。



メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- ファイルをエンコード/ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。

ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。

1 LIST ボタンを押す

フォルダー／ファイルリストが表示されます

2 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとにフォルダー名やファイル名が切り換わります

次のフォルダー（ファイル）を選ぶとき：
右に回す

前のフォルダー（ファイル）を選ぶとき：
左に回す



選んでいるフォルダーの中に収録されているフォルダーや曲（ファイル）の数を表示します。

3 聞きたいファイルが入っているフォルダーが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを右に操作する

選んだフォルダーに収録されているフォルダーやファイルのリストが表示されます

4 聞きたいファイルが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す

選んだファイルが再生されます

5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



知っているると便利

- プレイリストを選んでおるときに、ロータリーコマンドを押すと、選んだプレイリストの再生が始まります。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたいファイル名やフォルダー名を選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドを左に操作すると、1つ前のリスト（1階層上のフォルダー）に戻ります。
- フォルダーが中央に表示されているときにロータリーコマンドを押すと、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。



メモ

- 再生中のファイルやフォルダーは反転表示されます。
- フォルダー／ファイルリストは、必ず「ROOT」から表示されます。
- USB機器内に再生できるファイルがない場合、「No Audio」が表示されます。
- 選んだプレイリストが再生できない場合、「N/A PLAYLIST」が表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンドを押しても再生しません。
- リスト表示中のフォルダー番号は、実際の番号とは異なります。
- フォルダー／ファイルリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- 収録ファイル数が多く、リスト番号が3桁になる場合は、下2桁だけが表示されます。

iPod Dock コネクタ (USB 2.0ケーブル用) を使用して iPod を本機に接続すると、iPod を本機から『USB』ソースとして操作できます。対応している iPod について詳しくは (※ はじめに ③ 12 ページ)

● iPod アダプター (例: 「CD-IB10II」) と組み合わせて iPod を接続している場合は、『iPod』ソースになります。『iPod』ソースでは、Podcast やオーディオブックに関する機能は操作できません。



ご注意

- 再生範囲が1曲リピートのときは、ロータリーコマンダーを左右に操作して曲を選ぶことはできません。
- iPodにはDockコネクタのみを接続してください。Dockコネクタ以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
- iPodを本機に接続する前に、iPodからヘッドホンを外してください。

(画面例)



1 ソースをUSB (または iPod) にする

SOURCE ボタンを押す

2 ロータリーコマンダーを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ: 右に操作する

前の曲を選ぶ: 左に操作する

■ 早送り/早戻しをするとき

早送り: 右に長く操作する

早戻し: 左に長く操作する

3

iPodの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする



メモ

- エンジンスイッチがACCまたはONになっている場合、iPodのバッテリーが充電されます。
- iPodは本機に接続されている間、iPod自身で電源をON/OFFすることはできません。
- エンジンスイッチをOFFにして約2分後に、本機に接続されているiPodの電源もOFFになります。
- iPod接続時のご注意やiPodの設定については (※ その他 ③ 107 ページ)

iPod

2

チャプターを選ぶ

USB 接続時のみ操作できる機能です。

再生しているオーディオブックやPodcastにチャプターがある場合、チャプターを選べます。

1

ロータリーコマンドを上下に操作する

チャプターが切り換わります

次のチャプターを選ぶとき：上に操作する

前のチャプターを選ぶとき：下に操作する

ジャンル、アーティスト、アルバムなどのリストから、お好みのアーティストやアルバムなどを選んで再生できます。



ご注意

- プレイリストを選択した場合、本機では最初に iPod の本体名称のプレイリストを表示します。これは iPod に収録されているすべての曲を再生するプレイリストです。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。
- iPod アダプターを使用している場合、「Podcast」や「オーディオブック」は選べません。

1 LIST ボタンを押す

ブラウズモードになります

2 カテゴリーを選ぶ

ロータリーコマンドナーを回して選びたいカテゴリーを中央に表示し、ロータリーコマンドナーを押す

プレイリスト、アーティスト、アルバム、曲、Podcast (ポッドキャスト)、ジャンル、オーディオブックの中から選べます。

3 お好みのジャンルを選ぶ

ロータリーコマンドナーを回してお好みのジャンルを中央に表示し、ロータリーコマンドナーを押す

お好みのジャンルに登録されているアーティストのリストが表示されます。

4 お好みのアーティストを選ぶ

ロータリーコマンドナーを回してお好みのアーティストを中央に表示し、ロータリーコマンドナーを押す

お好みのアーティストに登録されているアルバムのリストが表示されます。

5 お好みのアルバムを選ぶ

ロータリーコマンドナーを回してお好みのアルバムを中央に表示し、ロータリーコマンドナーを押す

お好みのアルバムに登録されている曲のリストが表示されます。

6 お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンドナーを回してお好みの曲を中央に表示し、ロータリーコマンドナーを押す

お好みの曲の再生が始まります。



知っている则便利

- 1つ前のリストに戻るには、ロータリーコマンドナーを左に操作します。
- 手順3で、再生したいリストを中央に表示しているときに、ロータリーコマンドナーを長く押すと、選んだリストをすぐに再生できます。
- ロータリーコマンドナーを上下に操作して、聞きたいリスト名を表示することもできます。
- ロータリーコマンドナーを右に操作して、中央に表示しているリストを選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドナーを左に長く操作すると、トップメニューに戻ることができます。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

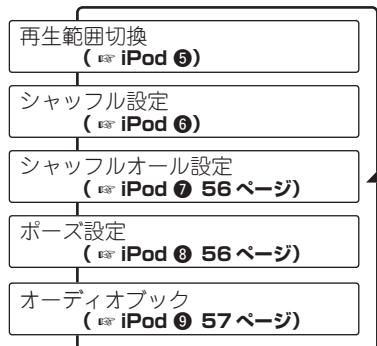
2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

■USBで接続しているとき



■iPodアダプターで接続しているとき



知っている则便利

- リモコンのFUNCTIONボタンを押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BANDボタンを押します。(30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

繰り返し再生する

リピート再生

曲を繰り返し（リピート）再生できます。繰り返しの範囲は、今聞いている曲、今聞いているリストから選べます。



ご注意

- 1曲リピートを選ぶと、ロータリーコマンドを左右に操作して曲を選ぶことはできなくなります。

1 再生範囲切替にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、次の順序で再生範囲が切り換わります

Repeat One (1曲リピート)

Repeat All (リスト内全曲リピート)

1 曲リピート：

今聞いている曲を繰り返し再生します。

リスト内全曲リピート：

今聞いているリスト内のすべての曲を繰り返し再生します。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

違う曲順で再生する

シャッフル再生

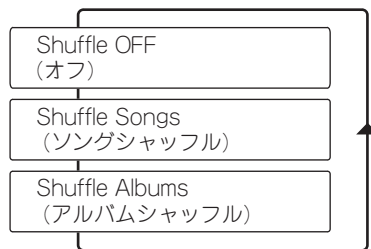
曲やアルバムを順不同（ランダム）に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 シャッフル設定にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、次の順序でシャッフル設定が切り換わります



ソングシャッフル：

今聞いているリスト内の曲をランダムに再生します。

アルバムシャッフル：

アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生します。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

iPod
7**すべての曲をシャッフルしてから再生する**

全曲シャッフル

USB 接続時のみ操作できる機能です。

iPodのミュージックライブラリ内のすべての曲を順不同（ランダム）に再生できます。

1

ふだんの再生画面で、ロータリーコマンドを長く押す**「Shuffle All」が2秒間表示され、全曲シャッフル再生が始まります****知っていると便利**

- ファンクションメニューのシャッフルオール設定でも、操作できます。

iPod
8**再生を一時停止する**

ポーズ

曲の再生を一時停止できます。

1

ポーズ設定にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ

2

ロータリーコマンドを押す**再生を一時停止します**

もう一度押すと、OFFになります。

3

BAND ボタンを押す**ふだんの再生画面に戻ります**

iPod
9

オーディオブックの再生速度を変更する

USB接続時のみ操作できる機能です。

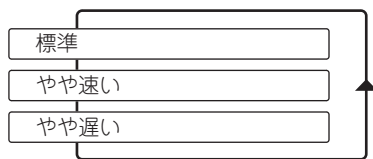
オーディオブックの再生中に、オーディオブックの再生速度を変更できます。

1 オーディオブックにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で再生速度が切り換わります



3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

iPod
10

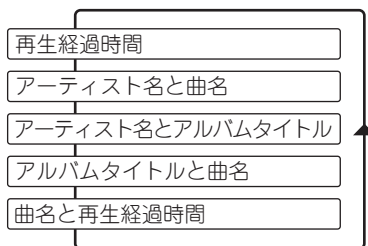
タイトルやアーティスト名を表示させる

タイトル表示

iPodに記録されている曲名やアーティスト名、アルバムタイトルなどを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

1 DISPLAY ボタンを押す

DISPLAY ボタンを押すごとに、次の順序で切り換わります



知っていると便利

- 隠れている文字を表示させるには、DISPLAY ボタンを長く押しします。



メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- 本機が表示できない文字がiPodに記録されている場合、その文字は表示されません。

BT Audio について

本機でのBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）の基本的な操作方法を説明しています。Bluetoothアダプターの機能について、詳しくは組み合わせたBluetoothアダプターの取扱説明書をご覧ください。

（画面例）



BT Audio 1

BT Audio のふだんの操作

Bluetooth対応機器を本機のソースとして使用できます。



ご注意

- Bluetooth対応機器を本機のBT Audioソースとして使用する場合、以下の設定を行う必要があります。
 - － BT AudioソースをONにする（※ 初期設定 ⑩ 98ページ）
 - － パスコードを編集する（※ 初期設定 ⑩ 99ページ）
 - － Bluetooth接続する（※ BT Audio ②）

1

ソースをBT Audioにする

SOURCE ボタンを押す

2

ロータリーコマンダーを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する

前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける

早戻し：左に操作し続ける

3

BT Audioの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする



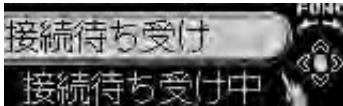
メモ

- 組み合わせるBluetooth対応機器によっては、操作や動作が異なる場合があります。Bluetooth対応機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- 組み合わせるBluetooth対応機器によっては、早送り／早戻し中に音声が出ない場合があります。

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

■BT Audio が接続されていないとき

接続待ち受け ↔ デバイス情報 ↔ 接続待ち受けに戻る

■BT Audio が接続されているとき

接続解除設定 ↔ 再生 ↔ 停止 ↔ ポーズ設定 ↔ デバイス情報 ↔ 接続解除設定に戻る

4 選んだ機能进行操作する

接続待ち受け

ロータリーコマンドを押すと、Bluetooth対応機器の接続待ち受け状態になります。Bluetooth対応機器を操作して、本システムと接続します。

接続解除設定

ロータリーコマンドを押すと、Bluetooth接続を解除します。

再生

ロータリーコマンドを押すと、Bluetooth対応機器の再生を始めます。

停止

ロータリーコマンドを押すと、Bluetooth対応機器の再生を停止します。

ポーズ設定

ロータリーコマンドを押すごとに、ON/OFFします。

デバイス情報

(BT Audio 60 ページ)



知っているとお便利

- リモコンのFUNCTIONボタンを押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- BT Audio が低いレベルで接続されている場合、「再生」、「停止」、「ポーズ設定」には、切り換わりません。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(30秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)

本システムのデバイス情報を確認する

1 デバイス情報にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

本システムのデバイス名 (Pioneer BT unit) が表示されます。

2 ロータリーコマンドーを左に操作する

デバイスアドレスが表示されます

ロータリーコマンドーを右に操作すると、デバイス名表示に戻ります。

3 ロータリーコマンドーを下に操作する

本システムのマイコンのバージョンが表示されます

ロータリーコマンドーを上には操作すると、デバイス名表示に戻ります。

4 ロータリーコマンドーを左に操作する

Bluetooth デバイスモジュールのバージョンが表示されます

ロータリーコマンドーを右には操作すると、マイコンのバージョン表示に戻ります。

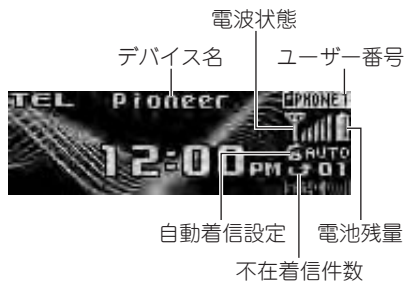
5 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

BT Telephone について

本機でのBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）の基本的な操作方法を説明しています。Bluetoothアダプターの機能について、詳しくは組み合わせたBluetoothアダプターの取扱説明書をご覧ください。

（画面例）



携帯電話

1

電話の待ち受けソースにする

BT Telephone

電話の待ち受けソース（BT Telephone）では、本システムに接続したBluetooth対応の携帯電話のさまざまな設定を行うことができます。



ご注意

- 本機で、Bluetooth対応の携帯電話を使用して、ハンズフリー通話をするには、Bluetooth接続を行う必要があります。（※ 携帯電話 ⑧ 66 ページ）



ソースを電話の待ち受けにする

SOURCE ボタンを押す



メモ

- 組み合わせるBluetooth対応の携帯電話によっては、操作や動作が異なります。携帯電話の取扱説明書も併せてご覧ください。

携帯電話

2

電話番号を入力して電話をかける

電話番号を入力して電話をかけることができます。

1 リモコンのDIRECT ボタンを押す

ナンバー入力発信が表示されます

2 リモコンの0～9 ボタンを押す

押した番号が入力されます

3 リモコンのジョイスティックを押す

入力した番号が決定されます

4 もう一度リモコンのジョイスティックを押す

決定した番号に発信します



知っていると便利

- ロータリーコマンドーを押して、電話をかけることもできます。
- ファンクションメニューのナンバー入力発信 (※ 携帯電話 ⑩ 73 ページ) を選んだ場合も、同様の操作になります。

携帯電話

3

プリセットダイヤルで電話をかける

プリセットダイヤルに登録されている電話番号へ電話をかけることができます。



ご注意

- プリセットダイヤルで電話をかけるには、あらかじめプリセットダイヤルに電話番号を登録しておく必要があります。(※ 携帯電話 ⑩ 72 ページ)

1

リモコンの1～6 ボタンを押す

押した番号に登録されている電話番号を呼び出します

2

リモコンのジョイスティックを押す

選んだプリセット番号に登録されている電話番号に発信します



知っていると便利

- ロータリーコマンドーを押して、電話をかけることもできます。

音声操作で電話をかける

音声認識機能のある携帯電話を接続している場合、音声認識機能で電話をかけることができます。音声操作について、詳しくは携帯電話の取扱説明書をご覧ください。



ご注意

- 音声認識機能のない携帯電話では、「機能がありません」と表示されて、操作できません。
- 音声認識機能のある携帯電話でも、HFP 接続できていない場合は、操作できません。

1 BAND ボタンを長く押す

音声認識画面が表示されます

2 電話をかけたい相手の名前を発話する

発話した名前の相手に発信します

かかってきた電話に出る

どのソースを聞いているときでも、本機の電源がOFFのときでも、かかってきた電話に出ることができます。

かかってきた電話に出る

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを押す

電話がつながり、通話できます

2 通話中に、ロータリーコマンダーを回す

通話中の相手声の音量（受話音量）を調節する

3 ロータリーコマンダーを下に操作する

電話が切れます

通話中にかかってきた別の電話に出る（割込通話）



ご注意

- 割込通話機能の利用には、携帯電話会社との契約が必要です。
- 割込通話中は、通話の相手を切り換えることはできますが、通話を個別に切ることはできません。

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを押す

ロータリーコマンダーを押すごとに、通話の相手が切り換わります

2 ロータリーコマンダーを下に操作する

通話中の相手だけでなく、保留にしている相手の電話も切れます

携帯電話

6

かかってきた電話を切る (着信拒否)

電話に出られないときは、着信を拒否できます。また、通話中にかかってきた別の電話の着信を拒否することもできます。

かかってきた電話を切る

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを下に操作する

かかってきた電話の着信を拒否します



知っている则便利

- 手動で着信拒否をした場合、電話番号が不在着信履歴に残ります。(※ 携帯電話 16 72 ページ)
- すべての着信を自動で拒否することもできます。この場合、電話番号は不在着信履歴には残りません。

通話中にかかってきた別の電話を切る



ご注意

- 通話中にかかってきた電話は、手動で着信拒否をした場合でも、電話番号は不在着信履歴に残りません。

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを下に操作する

通話中に、かかってきた電話の着信を拒否します

携帯電話

7

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンダーを押す

メインメニューが表示されます

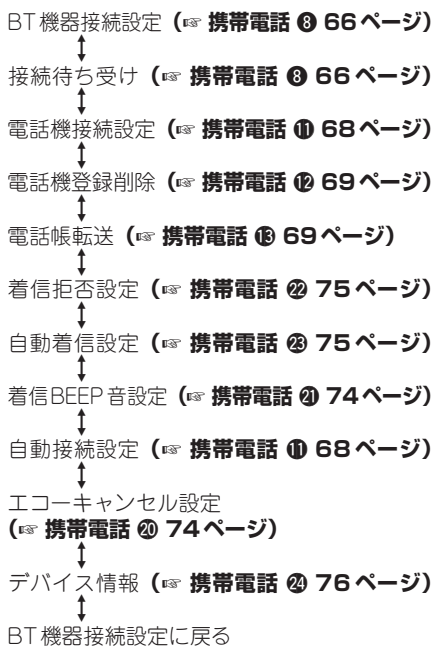
2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

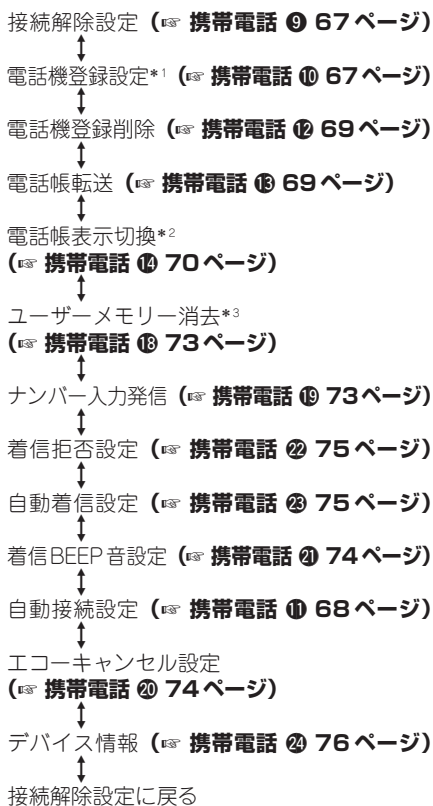
3 ローターコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

■携帯電話が接続されていないとき



■携帯電話が接続されているとき



知っている则便利

- リモコンのFUNCTIONボタンを押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- 電話の待ち受け画面に戻るときは、BANDボタンを押します。(30秒間何も操作しないと自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。)
- *1 接続中の電話機が登録されているときは、電話機登録設定には切り換わりません。
- *2 接続中の電話機がユーザーとして登録されていないときは、電話帳表示切換には切り換わりません。
- *3 接続中の電話機が登録されていないときは、ユーザーメモリー消去には切り換わりません。

接続可能な携帯電話を検索して接続する

1 BT 機器接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

接続可能な携帯電話を検索する

接続可能な携帯電話が見つかったら、デバイス名（機器名称）が表示されます。

- 接続可能な携帯電話が複数見つかった場合は、ロータリーコマンドーを上下に操作して、接続する携帯電話を選びます。

3 もう一度、ロータリーコマンドーを押す

携帯電話を Bluetooth 接続する

接続を完了するには、携帯電話で本システムのデバイス名（Pioneer BT unit）を確認し、パスコードを入力します。接続が完了すると、「接続しました」と表示されます。

4 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



知っている则便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。



メモ

- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます。（※ 初期設定 ⑩ 99 ページ）
- 携帯電話のデバイス名が取得できなかった場合は、「Name not found」と表示されます。
- 接続可能な携帯電話が見つからなかった場合は、「見つかりません」と表示されます。

携帯電話から接続する



ご注意

- 携帯電話によって操作は異なります。詳しくは、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- 携帯電話によっては、パスコードの入力が必要になる場合があります。
- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます。（※ 初期設定 ⑩ 99 ページ）

1 接続待ち受けにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

携帯電話からの接続待ち受け状態になります

3 携帯電話を操作して、本システムと Bluetooth 接続する

携帯電話が Bluetooth 接続されます

4 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

Bluetooth 接続を解除する

1 接続解除設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

本システムとの Bluetooth 接続が解除されます

3 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

携帯電話を登録する

1 電話機登録設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

登録する設定を選ぶ

P1 (ユーザー 1)、P2 (ユーザー 2)、P3 (ユーザー 3)、G1 (ゲスト 1)、G2 (ゲスト 2) の中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを押す

携帯電話が選んだ設定に登録されます

- すでに登録されている携帯電話は、別の設定に登録できません。

4 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- ゲストとして登録された携帯電話では、一部操作できない機能があります。

登録されている携帯電話を接続する

手動で接続する

1 電話機接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

接続したい携帯電話の設定を選ぶ

P1 (ユーザー 1)、P2 (ユーザー 2)、P3 (ユーザー 3)、G1 (ゲスト 1)、G2 (ゲスト 2) の中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを押す

選んだ携帯電話が Bluetooth 接続されます

4 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

自動で接続する

1 自動接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

自動接続設定が ON になります

本システムに登録されている携帯電話と自動的に Bluetooth 接続を開始する待機状態になります。

もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 登録されている携帯電話でも、機種によっては自動接続できない場合があります。この場合は、手動で接続してください。

携帯電話の登録を削除する

1 電話機登録削除にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

登録を削除したい携帯電話の設定を選ぶ

P1 (ユーザー 1)、P2 (ユーザー 2)、P3 (ユーザー 3)、G1 (ゲスト 1)、G2 (ゲスト 2) の中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを右に操作する

確認画面が表示されます

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだ携帯電話の登録が削除されます

5 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



知っている则便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名（機器名称）とデバイスアドレスを切り換えることができます。

携帯電話の電話帳を転送する

1 電話帳転送にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

電話帳転送の待機状態になります

3 携帯電話を操作して、本システムに電話帳データを転送する

電話帳が転送されます

4 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 電話帳データの転送は、携帯電話を操作して行います。（携帯電話の操作方法については、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。）

携帯電話
14

電話帳の表示方法を切り換える

1 電話帳表示切換にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

電話帳データの表示方法が切り換わります

ロータリーコマンドーを押すごとに、電話帳データの表示方法が切り換わります。

3 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 電話帳データを転送した携帯電話によっては、表示方法を切り換えられない場合があります。

携帯電話
15

電話帳を使う

電話帳から電話をかける

1 LIST ボタンを押す

ボタンを押すごとに次の順序で切り換わります

電話帳 → 不在着信履歴 → 発信履歴 → 着信履歴 → 電話帳に戻る

2 ロータリーコマンドーを回す

電話をかけたい相手を選ぶ

次のデータを選ぶとき：右に回す
前のデータを選ぶとき：左に回す

3 ロータリーコマンドーを右に操作する

選んだデータの詳細リストが表示されます

4 電話番号が複数登録されている場合、ロータリーコマンドーを回す

かけたい電話番号を選ぶ

次の電話番号を選ぶとき：右に回す
前の電話番号を選ぶとき：左に回す

5 ロータリーコマンドーを押す

選んだ電話番号に電話をかける

通話を終了するときは、ロータリーコマンドーを下に操作します。



メモ

- 詳細リスト表示中にDISPLAY ボタンを長く押しすと、名前と電話番号をスクロール表示できます。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。
- リスト表示は、30秒間何も操作しないと自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。

電話帳編集画面を表示する

1 電話帳から、編集したいデータの詳細リストを表示する

2 ロータリーコマンドーを長く押す

電話帳編集画面が表示されます

3 ロータリーコマンドーを回す

編集する項目を選ぶ

電話番号編集、電話帳削除の中から選べます。

電話帳データの電話番号を編集する

1 電話番号編集画面にする

2 電話番号を編集する

■ 入力する数字を選ぶとき

次の数字を選ぶ：上に操作する

前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき

右に移動する：右に操作する

左に移動する：左に操作する

3 ロータリーコマンドーを押す

編集した電話番号が登録され、詳細リストに戻ります

電話帳データを削除する

1 電話帳削除画面にする

2 ロータリーコマンドーを右に操作する

確認画面が表示されます

3 ロータリーコマンドーを押す

選んだ電話帳データが削除され、3行リスト表示に戻ります

携帯電話
16

履歴から電話をかける

不在着信履歴、発信履歴、着信履歴に記録されている電話番号へ電話をかけることができます。

1 LIST ボタンを押す

ボタンを押すごとに次の順序で切り換わります

電話帳 → 不在着信履歴 → 発信履歴 → 着信履歴 → 電話帳に戻る

2 ロータリーコマンドーを回す

電話をかけたい履歴データを選ぶ

次のデータを選ぶとき：右に回す

前のデータを選ぶとき：左に回す

3 ロータリーコマンドーを右に操作する

選んだデータの詳細リストが表示されます

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだ履歴データに電話をかける

通話を終了するときは、ロータリーコマンドーを下に操作します。



メモ

- 電話帳データに登録されている電話番号は、登録名が表示されます。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。
- リスト表示は、30秒間何も操作しないと自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。

携帯電話
17

よくかける電話番号を登録する

プリセットダイヤル

1 LIST ボタンを押す

プリセットダイヤルに登録したい電話番号の入っているリストを選ぶ

電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴の中から選べます。

2 ロータリーコマンドーを回す

登録したい電話番号を選ぶ

次のデータを選ぶとき：右に回す

前のデータを選ぶとき：左に回す

3 ロータリーコマンドーを右に操作する

選んだデータの詳細リストが表示されます

4 リモコンの1～6ボタンを長く押す

選んだプリセット番号に電話番号が登録されます

データを消去する

1 ユーザーメモリー消去にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

消去するデータを選ぶ

電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴、プリセットダイヤル、すべて削除の中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを右に操作する

確認画面が表示されます

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだデータが消去されます

5 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 「すべて削除」を選ぶと、電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴、プリセットダイヤルの全データを消去します。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。

電話番号を入力して電話をかける

1 ナンバー入力発信にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 電話番号を入力する

■ 入力する数字を選ぶとき

次の数字を選ぶ：上に操作する
前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき

右に移動する：右に操作する
左に移動する：左に操作する

3 ロータリーコマンドーを押す

入力した電話番号が決定され、確認画面が表示されます

4 もう一度、ロータリーコマンドーを押す

入力した電話番号に電話をかける

通話を終了するときは、ロータリーコマンドーを下に操作します。

携帯電話

20

通話中のノイズやエコーを軽減する

1 エコーキャンセル設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

エコーキャンセル設定がONになります
もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

携帯電話

21

着信音をON / OFFする

1 着信BEEP音設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

着信BEEP音設定がONになります
もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

着信拒否を設定する

1 着信拒否設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンダーを押す

着信拒否設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

自動着信を設定する

1 自動着信設定にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンダーを押す

自動着信設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

本システムのデバイス情報を確認する

1 デバイス情報にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

本システムのデバイス名 (Pioneer BT unit) が表示されます。

2 ロータリーコマンドーを左に操作する

デバイスアドレスが表示されます

ロータリーコマンドーを右に操作すると、デバイス名表示に戻ります。

3 ロータリーコマンドーを下に操作する

本システムのマイコンのバージョンが表示されます

ロータリーコマンドーを上に操作すると、デバイス名表示に戻ります。

4 ロータリーコマンドーを左に操作する

Bluetooth デバイスモジュールのバージョンが表示されます

ロータリーコマンドーを右に操作すると、マイコンのバージョン表示に戻ります。

5 BAND ボタンを押す

電話の待ち受け画面に戻ります

テレビについて

本機でのテレビの基本的な操作方法を説明しています。テレビの機能について、詳しくは組み合わせたテレビの取扱説明書をご覧ください。

(画面例)



- 本機では、登録したチャンネルを一覧表示して見たいチャンネルを選ぶことができます。(※ テレビ ③ 79ページ)

テレビ
1

テレビのふだんの操作

ここだけの操作で、テレビを見ることができます。

1 ソースをテレビにする

SOURCE ボタンを押す

2 BAND ボタンを押す

バンドが切り換わります

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

チャンネルが切り換わります

4 テレビの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする



知っていると便利

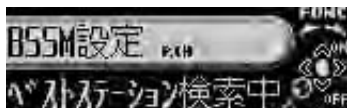
- リモコンの1～6ボタンでお好みのチャンネルの登録や呼び出しができます。(※ ラジオ ① ② 39ページ)
- チャンネルリストでもチャンネルを登録できます。(※ テレビ ③ 79ページ)

テレビ
2

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

BSSM設定 ↔ マルチプレックス選択 ↔ BSSM設定に戻る

4 選んだ機能进行操作する

BSSM設定

ロータリーコマンドーを押すごとに、ON/OFFします。BSSMが終了すると、自動的にチャンネルリストに切り換わります。

マルチプレックス選択

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で切り換わります。

Main → Sub → Main & Sub → Mainに戻る



BSSMとは

- BSSMは、「Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー)」の略です。



知っている则便利

- リモコンのFUNCTIONボタンを押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- ふだんの受信画面に戻るときは、BANDボタンを押します。(30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)

チャンネル一覧から見たいチャンネルを呼び出す

チャンネルリスト

チャンネルリスト機能に対応しているテレビ（例：「AVX-P9DV」や「AVX-P7」）を接続したときだけ、操作できる機能です。

1～12の番号に登録したチャンネルを、チャンネルの一覧（チャンネルリスト）の中からさがすことができます。

1 BAND ボタンを押す

バンドを選ぶ

2 LIST ボタンを押す

チャンネルリストが表示されます

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとにチャンネルが切り換わります

次のチャンネルを選ぶとき：右に回す

前のチャンネルを選ぶとき：左に回す

4 見たいチャンネルが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す

選んだチャンネルが受信されます

5 BAND ボタンを押す

ふだんの受信画面に戻ります



知っていると便利

- ロータリーコマンドを長く押すと、中央に表示されている登録番号に現在受信しているチャンネルを登録することができます。



メモ

- 受信中のチャンネルは反転表示されます。
- チャンネルリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

DVD プレーヤーについて

本機でのDVDプレーヤー（例：マルチDVD「XDV-P70」、1枚型DVD「SDV-P7」）の基本的な操作方法を説明しています。DVDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

（画面例）



DVD 1

DVDのふだんの操作

ここだけの操作で、DVDプレーヤーでディスクを再生することができます。

1 ソースをDVDにする

SOURCE ボタンを押す

2 マルチDVDの場合、リモコンの1～6ボタンを押す

押した番号のディスクに切り換わります

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 聞きたいチャプター／トラックを選ぶとき

次のチャプター／トラックを選ぶ：
右に操作する

前のチャプター／トラックを選ぶ：
左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける

早戻し：左に操作し続ける

4 DVDプレーヤーの再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする



知っていると便利

- CDにタイトルが入力されている場合、DISPLAYボタンを押すごとに、ディスクタイトル表示をON/OFFできます。

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

DVD、ビデオCD再生時

再生範囲切替 ↔ ポーズ設定 ↔ 再生範囲切換に戻る

CD再生時

再生範囲切換 ↔ ランダムプレイ設定 ↔ スキャンプレイ設定 ↔ ポーズ設定 ↔ ITSプレイ設定 ↔ ITS登録 ↔ タイトル入力 ↔ 再生範囲切換に戻る

CD-ROM再生時

再生範囲切換 ↔ ランダムプレイ設定 ↔ スキャンプレイ設定 ↔ ポーズ設定 ↔ 再生範囲切換に戻る

次のページへ続く

4 選んだ機能进行操作する

再生範囲切換

ロータリーコマンドを押すごとに、再生範囲が次の順序で切り換わります。

DVD 再生時

Disc repeat → Chapter repeat →
Title repeat → Disc repeatに戻る

ビデオ CD、CD 再生時

Disc repeat → Track repeat → Disc
repeatに戻る

CD-ROM 再生時

Disc repeat → Track repeat →
Folder repeat → Disc repeatに戻る

ランダムプレイ設定

ロータリーコマンドを押すごとに、ON/
OFFします。


スキャンプレイ設定

ロータリーコマンドを押すごとに、ON/
OFFします。

ポーズ設定

ロータリーコマンドを押すごとに、ON/
OFFします。


タイトル入力

タイトル入力の操作方法は、CDと同じです。
( **CD 13 35 ページ**)

ITS プレイ設定

ITS プレイ設定の操作方法は、マルチ CD と
同じです。( **CD 10 33 ページ**)

ITS 登録

ITS 登録の操作方法は、マルチ CD と同じで
す。( **CD 9 32 ページ**)



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND ボタンを押します。(タイトル入力やITS登録を選んでいるとき以外は、30秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)
- 「CD TEXT」に対応しているDVDプレーヤーで「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力には切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)
- 組み合わせたマルチDVDプレーヤーによって、選べる機能は異なります。



知っていると便利

- リモコンのFUNCTIONボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

オーディオ調整メニューの切り換えかた

「音量バランス調節」「ラウドネス」などの音質調整機能を使うときは、オーディオ調整メニューで機能を選んで操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

2 オーディオ調整メニューにする

ロータリーコマンドを回して「AUDIO」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります



知っている则便利

- リモコンのAUDIOボタンを押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BANDボタンを押します。(イコライザー7バンド調節メニューを選んでるとき以外は、30秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)
- サブウーファー調節メニューは、サブウーファー設定メニューの設定がONのときだけ選べます。
- ラジオのFMを聞いているときは、SLAには切り換わりません。

音の調節

2

好みの音の空間に設定する

VSC

VSCは、あらかじめ用意された音場設定を選ぶことで、好みの音の空間を手軽に演出できます。さらに、乗車位置を選ぶことで、より自然な音響効果が得られます。



VSCとは

- VSCは、「Virtual Sound Creator (バーチャルサウンドクリエイター)」の略です。



SFEとは

- SFEは、「Sound Focus Enhancer (サウンドフォーカスエンハンサー)」の略です。



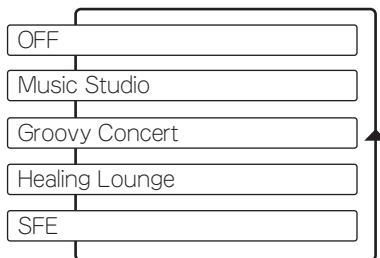
ご注意

- 交通情報を受信しているときや電話の待ち受けソースを選んでいるときは、VSC機能は操作できません。

1

VSC ボタンを押す

VSC ボタンを押すごとに、次の順序で音場設定が切り換わります



2

ロータリーコマンドを左右に操作する

乗車位置を選ぶ

Left (左)、Center (左+右)、Right (右)の中から選べます。

3

BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節

3

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー/バランス

前後左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。



ご注意

- S/Wコントロール (※ 初期設定 ⑧ 95 ページ) を、Rear SP:S/Wにしたときは、Fader (フェーダー) は調節できません。

1

Fader/Balance (音量バランス調節) にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ

2

音量バランスを調節する

■ 前後を調節するとき

前を強める：上に操作する

後ろを強める：下に操作する

前後のバランスは、F15～R15の範囲で調節できます。

■ 左右を調節するとき

右を強める：右に操作する

左を強める：左に操作する

左右のバランスは、L15～R15の範囲で調節できます。

3

BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、お好みの音質にできます。

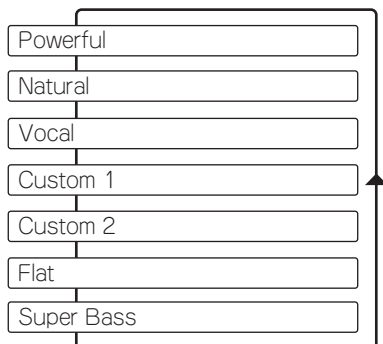


ご注意

- 交通情報を受信しているときや電話の待ち受けソースを選んでいるときは、イコライザーカーブを選べません。

1 EQ ボタンを押す

EQ ボタンを押すごとに、次の順序でイコライザーカーブが切り換わります



メモ

- 「Custom1」と「Custom2」は、お好みに合わせて調節できます。
- 「Flat」は、イコライザーによる音の補正がされていません。他のイコライザーカーブと切り換えることで、そのイコライザーカーブの効果を確認することもできます。

イコライザーカーブをだまかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの簡単な補正ができます。



ご注意

- 「Flat」や「Custom1」、「Custom2」は、ニュアンスコントロールによる補正はできません。

1 イコライザー調節にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

調節するイコライザーカーブを選ぶ

3 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する
レベルを小さくするとき：下に操作する
レベルは-6～+6の範囲で調節できます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 「Natural」を選んでいる場合、調節できるレベルは-4～+6の範囲になります。

イコライザーカーブを細かく調節する

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数ごとにレベルを調節できます。



Custom1とは

- 調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。(内蔵CDとマルチCD、External1とExternal2は、同じ設定になります。)
「Custom2」以外のカーブを選んでいるときに調節すると、自動的に「Custom1」に登録されます。



Custom2とは

- すべてのソースに共通のイコライザーカーブで、調節ができます。「Custom2」を選んでいるときに調節すると、調節内容が更新されます。

1

調節したいイコライザーカーブを選ぶ

EQ ボタンを押して選ぶ

2

イコライザー7バンド調節にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

3

ロータリーコマンドーを左右に操作する

周波数を選ぶ

高い周波数を選ぶとき：右に操作する

低い周波数を選ぶとき：左に操作する

50Hz、125Hz、315Hz、800Hz、2kHz、5kHz、12.5kHzの中から選べます。

4

ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する

レベルを小さくするとき：下に操作する

レベルは-6~+6の範囲で調節できます。

5

BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

小さな音量でも聞きやすくする

LOUDネス

小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じる場合があります。LOUDネスは、この不足感を補って、音を聞きやすくします。

1 LOUD (LOUDネス) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

LOUDネスがONになります

もう一度押すと、OFFになります。

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

LOUDネスの効果を選ぶ

Low (弱)、Mid (中)、High (強) の中から選べます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

サブウーファーを使う

本機では、リアスピーカー端子または、RCA出力端子に接続したサブウーファーを調節できます。サブウーファーの調節は、

①サブウーファーのON/OFFと位相切り換え

②サブウーファー調節

の2つのステップで行います。

「サブウーファーの設定について」(※ はじめに ⑧ 18 ページ) を参照して、お手持ちのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。



ご注意

- RCA出力設定 (※ 初期設定 ⑨ 96 ページ) をRearにしたときは、サブウーファーの調節はできません。
- サブウーファーのON/OFFと位相切り換え (※ 音の調節 ⑨ 88 ページ) で、サブウーファーをOFFにした場合は、サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節 (※ 音の調節 ⑩ 88 ページ) は操作できません。

音の調節

9

サブウーファーのON/OFFと位相切り換え

サブウーファー

本機にサブウーファーを接続して使用する場合は、サブウーファーの設定をONにする必要があります。

ONにしたあと、サブウーファーから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えてください。



位相切り換えとは

- サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域の成分が含まれています。車内条件により、これらの音の位相が反転（干渉）し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件に合わせて位相を正相または逆相に切り換えてください。

正相：サブウーファーの音が、フロント/リアスピーカーと同時に出力される

逆相：サブウーファーの音が、フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1 Sub W.1 (サブウーファー 1) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 OFFになっている場合は、ロータリーコマンドーを押す

サブウーファーがONになります

もう一度押すと、OFFになります。

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

サブウーファーの位相を選ぶ

正相 (Normal) を選ぶとき：右に操作する

逆相 (Reverse) を選ぶとき：左に操作する

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節

10

サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節

サブウーファー調節

サブウーファーから出力される低音域（カットオフ周波数）と出力レベルを設定します。他のスピーカーから出力される音とのつながりが自然になるように設定してください。



カットオフ周波数とは

- 選んだ周波数よりも上の周波数（もしくは下の周波数）の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。サブウーファーのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調させることもできます。

1 Sub W.2 (サブウーファー 2) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

カットオフ周波数を選ぶ

高い周波数を選ぶとき：右に操作する

低い周波数を選ぶとき：左に操作する

カットオフ周波数は、50、63、80、100、125 (Hz) の中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する

レベルを小さくするとき：下に操作する

レベルは、-24～+6の範囲で調節できます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

低い音を強調する

バスブースター

低音域を強調させることができます。バスブースターのレベルを上げると、迫力のある低音を再生できます。

1 Bass (バスブースター) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する
レベルを小さくするとき：下に操作する
レベルは、0～6の範囲で調節できます。

3 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- サブウーファー設定のON/OFFによって、ブーストされる音域は、次の周波数以下になります。
サブウーファー設定がONの場合：
サブウーファーのカットオフ周波数に連動
サブウーファー設定がOFFの場合：
100 Hz固定

低い音を出力しないようにする

ハイパスフィルター

選んだ周波数よりも高い音だけを、フロントスピーカー、リアスピーカーから出力します。

フロントスピーカーとリアスピーカーからは高音だけを出力させ、サブウーファーからは低音だけを出力させることで、各スピーカーとサブウーファーの音のつながりを自然にすることができます。



ハイパスフィルター (HPF) とは

- ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数 (カットオフ周波数) から下の音域 (低音域) をカットして、高音域を通すフィルターです。



カットオフ周波数とは

- 選んだ周波数よりも下の周波数 (もしくは上の周波数) の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。ハイパスフィルターのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも下の音域がカットされ、高音域だけが出力されます。

1 HPF (ハイパスフィルター) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

ハイパスフィルターがONになります
もう一度押すと、OFFになります。

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

カットオフ周波数を選ぶ

高い周波数を選ぶとき：右に操作する
低い周波数を選ぶとき：左に操作する
カットオフ周波数は、50、63、80、100、125 (Hz) の中から選べます。

4 BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります

音の調節
13

各ソースの音量を揃える

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量が違ふことがあります。SLAを使うと、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。



SLAとは

- SLAは、「Source Level Adjuster（ソースレベルアジャスター）」の略です。



ご注意

- ラジオのFMを聞いているときは、SLAには切り換わりません。

1

SLA（ソースレベルアジャスター）にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2

ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する

レベルを小さくするとき：下に操作する

レベルは-4～+4の範囲で調節できます。

3

BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- AM、テレビ、CD、USB、iPod、External（エクスターナルユニット）、AUX（外部機器）の音量差を調節することができます。なお、内蔵CDとマルチCD、AUX1とAUX2、External1とExternal2、およびAMと交通情報は同じ設定になります。

音の調節
14

騒音に合わせて自動的に音量を変える

ASL

周囲の騒音に合わせて、自動的に音量が変化するように設定できます。



ASLとは

- ASLは、「Automatic Sound Levelizer（オートマティック サウンドレベライザー）」の略です。ASLは、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1

ASL（オートマティック サウンドレベライザー）にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ

2

ロータリーコマンドーを押す

ASLがONになります

もう一度押すと、OFFになります。

3

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ASLの感度を選ぶ

高い感度を選ぶとき：右に操作する

低い感度を選ぶとき：左に操作する

感度は、Low、Mid-L、Mid、Mid-H、Highの中から選べます。

4

BAND ボタンを押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- 音量が十分にあるときは、騒音が大きくても音量の上げ幅は小さくなります。
- ASLが機能して、音量が上がリすぎた場合、音が歪むことがあります。そのときは音量を下げてください。

初期設定メニューの切り換えかた

「時計調整」「外部機器設定」などの機能を使うときは、初期設定メニューで操作します。初期設定メニューは、電源をOFFにした状態で操作します。

(画面例)



使いたい機能を選ぶ

1 SOURCE ボタンを長く押す

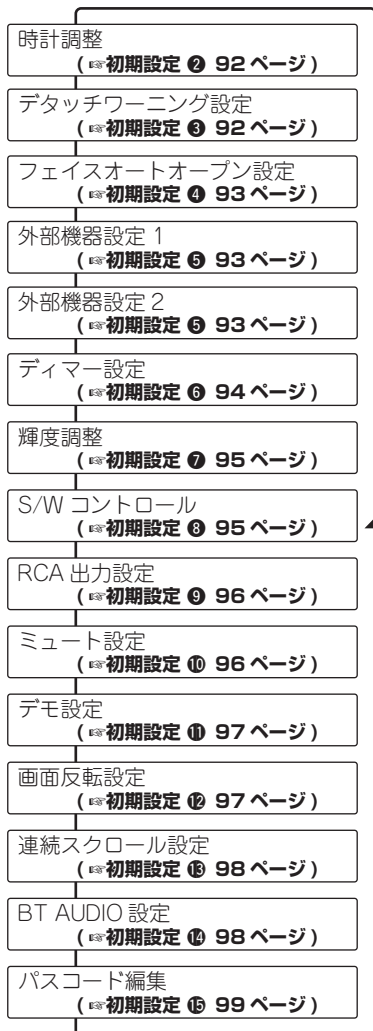
本機の電源をOFFにします

2 ロータリーコマンドを長く押す

初期設定メニューが表示されます。

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります



メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、BAND ボタンを押します。(初期設定メニューを解除すると、電源がOFFになります。)

初期設定

2

時計を合わせる

時計調整

本機のディスプレイに表示する時計の調整ができます。

1

時計調整にする

(☞ 初期設定 ① 91 ページ)

2

時計を調整する

■ 時または分を選ぶとき

ロータリーコマンドを左右に操作する

時を選ぶ：左に操作する

分を選ぶ：右に操作する

■ 時刻を合わせるとき

ロータリーコマンドを上下に操作する

時刻を進める：上に操作する

時刻を戻す：下に操作する

分を調節すると、0秒からカウントが始まります。

■ 時刻を時報に合わせるとき

ロータリーコマンドを押す

分が“00”になります。

例) 10 : 00 ~ 10 : 29 → 10 : 00

10 : 30 ~ 10 : 59 → 11 : 00

3

BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

初期設定

3

フロントパネルの外し忘れを警告する

デタッチワーニング

デタッチワーニングは、車を離れるときに、フロントパネルの外し忘れを警告ブザーで知らせる機能です。(初期設定では、OFFになっています。)

イグニッションスイッチをOFFにしたときに、フロントパネルを外し忘れていて、4秒後に警告ブザーが鳴ります。

フロントパネルを取り外すには (☞ はじめに ⑦ 16 ページ)

1

初期設定メニューを表示する

(☞ 初期設定 ① 91 ページ)

2

ロータリーコマンドを回す

デタッチワーニング設定を選ぶ

3

ロータリーコマンドを押す

デタッチワーニング設定がONになります

もう一度押すと、OFFになります。

4

BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

フロントパネルを 外しやすくする

フェイスオートオープン

フェイスオートオープンは、車を離れるときに、フロントパネルを外しやすくする機能です。(初期設定では、OFFになっています。)

イグニッションスイッチをOFFにした4秒後に、フロントパネルが自動的に開きます。

フロントパネルを取り外すには (☞ はじめに 7 16 ページ)

1 初期設定メニューを表示する

(☞ 初期設定 1 91 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

フェイスオートオープン設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

フェイスオートオープン設定がONになります

もう一度押すと、OFFになります。

4 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

外部機器 (AUX) の音 声を聞けるようにする

AUX

本機にポータブル音楽再生機器やVTR、ナビゲーションユニットなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。

外部機器の接続には、次の3通りがあります。

- ① 付属のAUXケーブルや市販のミニプラグを使用する場合 (AUX1)
- ② 別売のRCA / IP-BUS インターコネクターを使用する場合 (AUX2)
- ③ IP-BUSを使用する場合 (AUX2)
(パイオニア製ナビゲーションユニットのように、IP-BUS出力を持つパイオニア製品を接続する場合)



ご注意

- AUX2は、②と③のどちらか一方の接続方法で使用できます。(両方の接続方法を同時に使用することはできません。)

① 付属のAUXケーブルや市販のミニプラグを使用する場合

本体背面のAUX入力端子 (3.5 mm) に接続します。(☞ 取付説明書の接続 ②)

この場合、接続した外部機器は、AUX1ソースとして認識されます。

② 別売のRCA / IP-BUS インターコネクターを使用する場合

接続する外部機器にRCA出力がある場合、別売のRCA / IP-BUS インターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機のIP-BUS入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2ソースとして認識されます。詳しくは、RCA / IP-BUS インターコネクターの説明書をご覧ください。

③ IP-BUSを使用する場合 (パイオニア製ナビゲーションユニットを接続する場合)

別売のIP-BUSケーブル (例: 「CD-IP600J」) を使用して、本機のIP-BUS入力に接続します。接続したナビゲーションユニットはAUX2ソースとして認識され、音声のみが出力されます。

次のページへ続く

1 初期設定メニューを表示する

(☞ 初期設定 ① 91 ページ)

2 ロータリーコマンドーを回す

外部機器設定 1 または外部機器設定 2
を選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

外部機器設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が
OFF になります



メモ

- AUX1は、初期設定がONになっています。AUX1を使用しない場合は、OFFにします。
- 外部機器の名称は、変更できます。接続した機器に合わせて名称を変更すると便利です。外部機器の名称を変更するには、(☞ 便利な機能 ⑥ 103 ページ)
- シガーライターからポータブルプレーヤーの充電を行いながらAUX入力で音楽を聞くと、ノイズが出る場合があります。その場合は、シガーライターからの充電をおやめください。

夜間のディスプレイの
明るさを切り換える

車のライトをONにすると、ディスプレイが
暗くなるように設定できます。

夜間にディスプレイがまぶしく感じられる場
合、ディマー設定をONにすると便利です。



ご注意

- 輝度調整 (☞ 初期設定 ①) の設定を「0」にしているときは、ディマー設定をONにしても、効果はありません。

1 初期設定メニューを表示する

(☞ 初期設定 ① 91 ページ)

2 ロータリーコマンドーを回す

ディマー設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

ディマー設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が
OFF になります

ディスプレイの明るさを調節する

輝度調整 (ブライツ)

ディスプレイの明るさを調節できます。

1 初期設定メニューを表示する

( 初期設定 ① 91 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

輝度調整を選ぶ

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

ディスプレイの明るさを調節する

明るくするとき： 右に操作する

暗くするとき： 左に操作する


明るさは0～15の範囲で調節できます。

4 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります



メモ

- ディマー設定 ( 初期設定 ⑥) がONのときは、輝度調整の範囲は、0～10になります。

リアスピーカー出力を設定する

リアスピーカー出力の設定

リアスピーカー出力に接続するスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法を選びます。

- ① フルレンジスピーカーを接続するとき：
Rear SP:F.Rangeに設定します
- ② サブウーファーを接続するとき：
Rear SP:S/Wに設定します

リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:S/W」に切り換えると、リアスピーカー端子にサブウーファーを直接接続できます。

1 初期設定メニューを表示する

( 初期設定 ① 91 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

S/Wコントロールを選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

出力設定が、S/W (サブウーファー) に切り換わります

もう一度押すと、F.Range (フルレンジ) に切り換わります。

4 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

初期設定

9

RCA出力から出力される信号を選ぶ

RCA出力設定

本機のRCA出力端子に外部アンプを接続し、フルレンジスピーカーまたはサブウーファーを使用できます。接続するスピーカーに合わせて、RCA外部出力端子から出力される信号を選びます。

- ① サブウーファーを接続するとき：
Subwooferに設定します
- ② フルレンジスピーカーを接続するとき：
Rearに設定します



ご注意

- リアスピーカー出力の設定 (☞ 初期設定 ⑨ 95 ページ) でリアスピーカー出力を「Rear SP: S/W」に設定したときは、RCA出力の設定はできません。

1

リアスピーカー出力を「F.Range」に設定する

(☞ 初期設定 ⑨ 95 ページ)

2

ロータリーコマンダーを回す

RCA出力設定を選ぶ

3

ロータリーコマンダーを押す

RCA出力設定が、Rear (リアスピーカー) に切り換わります

もう一度押すと、Subwoofer (サブウーファー) に切り換わります。

4

BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

初期設定

10

ミュート/アッテネートを切り換える

ミュート

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートにするかアッテネートにするかを選べます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

- TEL mute : 音量「0」
- TEL ATT : 元の音量の約 1/10

ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的に元の音量に戻ります。

1

初期設定メニューを表示する

(☞ 初期設定 ① 91 ページ)

2

ロータリーコマンダーを回す

ミュート設定を選ぶ

3

ロータリーコマンダーを押す

ミュート設定が、TEL ATT (アッテネーター) に切り換わります

もう一度押すと、TEL mute (ミュート) に切り換わります。

4

BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります

フィーチャーデモを ON / OFF する

デモンストレーション

フィーチャーデモをON / OFF できます。



フィーチャーデモとは

- フィーチャーデモは、本機の電源がOFFのときに、各ソースや本機の機能（ファンクションやエンタテインメントなど）の画面を表示して紹介する機能です。

1

初期設定メニューを表示する

(初期設定 ① 91 ページ)

2

ロータリーコマンドを回す

デモ設定を選ぶ

3

ロータリーコマンドを押す

デモ設定がOFFになります
もう一度押すと、ONになります。

4

BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が
OFF になります



知っていると便利

- フィーチャーデモは、本機の電源がOFFのときに、DISPLAY ボタンを押すことでもON / OFF できます。

リバースモードを ON / OFF する

リバースモード

リバースモードをON / OFF できます。



リバースモード（画面反転設定）とは

- リバースモードは、本機の電源がONのときに、30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。

1

初期設定メニューを表示する

(初期設定 ① 91 ページ)

2

ロータリーコマンドを回す

画面反転設定を選ぶ

3

ロータリーコマンドを押す

画面反転設定がOFFになります
もう一度押すと、ONになります。

4

BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が
OFF になります



知っていると便利

- リバースモードは、本機の電源がOFFのときに、BAND ボタンを押すことでもON / OFF できます。

初期設定
13スクロールの設定を
切り換える

連続スクロール

連続スクロール設定をONにすると、CDのタイトルなどを連続してスクロールするようになります。スクロールを一度だけにしたときは、この機能をOFFにします。

1 初期設定メニューを表示する

(☞ 初期設定 ① 91 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

連続スクロール設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

連続スクロール設定がONになります
もう一度押すと、OFFになります。

4 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が
OFFになります

初期設定
14Bluetooth オーディオ
ソースをONにする

BT AUDIO

Bluetooth無線技術を利用して、Bluetooth対応機器を接続できます。Bluetooth対応機器を接続している場合、BT Audioソースの設定をONにします。



ご注意

- この機能は、別売のBluetoothアダプター(例:「CD-BTB10」)を接続しているときだけ操作できます。

1 初期設定メニューを表示する

(☞ 初期設定 ① 91 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

BT AUDIO 設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

BT AUDIO 設定がOFFになります
もう一度押すと、ONになります。

4 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源が
OFFになります

Bluetooth接続時に使用する暗証番号（パスコード）を変更できます。初期設定は、「0000」になっています。



ご注意

- この機能は、別売のBluetoothアダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。
- 空白は入力できますが、無効な文字です。空白を入力した場合、以下の制限があります。
 - －途中で空白を入力した場合、それ以降の文字が無効となってパスコードが確定されます。
 - －先頭に空白を入力した場合、パスコードは確定されません。もう一度、パスコードを編集してください。

1 初期設定メニューを表示する

(初期設定 ① 91 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

パスコード編集を選ぶ

3 パスコードを変更する

■ 入力する数字を選ぶとき

ロータリーコマンドを上下に操作する

次の数字を選ぶ：上に操作する

前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき

ロータリーコマンドを左右に操作する

右に移動させる：右に操作する

左に移動させる：左に操作する

4 ロータリーコマンドを押す

パスコードの編集を終了し、確認画面が表示されます

5 もう一度、ロータリーコマンドを押す

新しいパスコードに変更されます

6 BAND ボタンを押す

初期設定メニューが解除され、電源がOFFになります



知っていると便利

- リモコンの0～9ボタンでも数字を入力できます。

便利な機能

1

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくできます。

1

リモコンのATT ボタンを押す

瞬時に音量が小さくなります

アッテネーターがONのときは、音量が約1/10になります。

もう一度ATT ボタンを押すと、アッテネーターが解除されます。

便利な機能

2

時計を表示する

時計表示

本機のディスプレイに時計を表示できます。時計は、本機の電源がONのとき、または電源がOFFでフィーチャーデモをOFFにしているときに表示されます。

1

TI ボタンを長く押す

時計が表示されます

もう一度TI ボタンを長く押すと、時計表示が解除されます。



メモ

● 時計を合わせるには、(☞ 初期設定 ② 92ページ)

便利な機能

3

よく使う機能を 直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンのDFボタンは、よく使う機能を直接操作できます。

内蔵CD / マルチCD / USB
/ iPod / DVD / BT Audio
のとき

1 リモコンのDFボタンを押す

再生を一時停止します

もう一度DFボタンを押すと、再生が始まります。

ラジオ / テレビのとき

1 リモコンのDFボタンを長く 押す

BSMやBSSMが始まります

BSMやBSSM動作中に、もう一度DFボタンを押すと、BSMやBSSMを解除します。

便利な機能

4

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源OFFのときでも、どのソースからでも操作できます。

1 TIボタンを押す

交通情報を受信する

もう一度TIボタンを押すと、交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 ロータリーコマンドを左右 に操作する

交通情報の周波数を選ぶ

1 629 kHzを選ぶとき：右に操作する

1 620 kHzを選ぶとき：左に操作する



知っていると便利

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

エンタテインメントを表示する

エンタテインメント表示

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をさまざまなエンタテインメント表示から選べます。

1 ロータリーコマンドーを押す

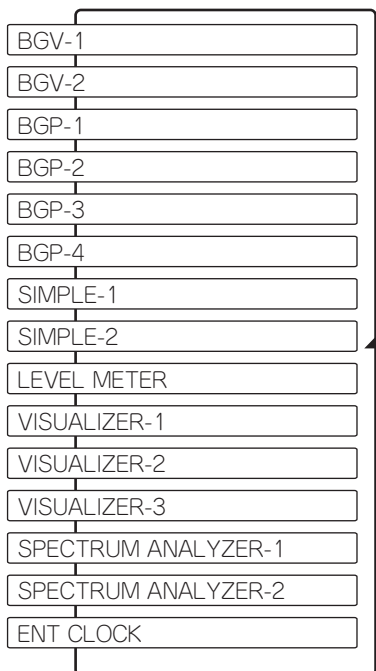
メインメニューが表示されます

2 エンタテインメントメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「ENTERTAINMENT」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序でエンタテインメント表示が切り換わります



4 ロータリーコマンドーを押す

選んだエンタテインメント表示が設定され、エンタテインメントメニューが解除されます



BGVとは

- BGVは、「Background Visual (バックグラウンドビジュアル)」の略です。



BGPとは

- BGPは、「Background Picture (バックグラウンドピクチャー)」の略です。



知っているとお便利

- リモコンのENTERTAINMENTボタンを押して、エンタテインメント表示を選ぶこともできます。



メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BANDボタンを押します。(30秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)

外部機器の名称を入力する

AUX (外部機器) 名称入力

外部機器 (AUX1、AUX2) の名称を本機に入力して、ディスプレイに表示させることができます。

たとえば、VTRを外部機器として本機に接続した場合は、初期状態で表示される「AUX1」または「AUX2」を「VTR」に変更して表示できます。

1 SOURCE ボタンを押す

AUX1 または AUX2 を選ぶ

2 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

3 タイトル入力にする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

4 AUX (外部機器) の名称を入力して登録する

CDのタイトル入力の手順3以降を参照し、同様の操作でAUX (外部機器) の名称を入力してください。(☞ CD ⑩ 35 ページ)



メモ

- 外部機器の名称は、8文字まで入力できます。

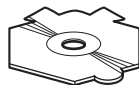
CDの正しい使いかた

使用できるCDについて

- 下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのあるCDは使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



- 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R／CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R／CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。
- CD-R／CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）

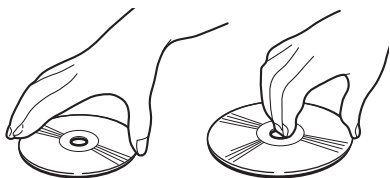
- ファイナライズされていないCD-R／CD-RWディスクには対応していません。
- CD-R／CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面にDVD規格準拠の映像やオーディオが、もう片面にCD再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD面ではないオーディオ面は、一般的なCDの物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起る可能性がありますので「DualDisc」は使用しないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

- CDは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。

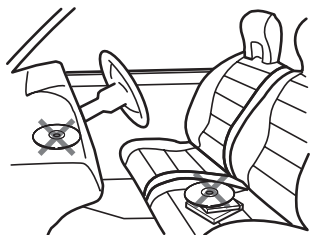


- CDにキズを付けないでください。
- CDにシールなどを貼り付けしないでください。



保管上のご注意

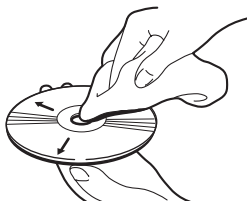
- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



- CDがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



CD再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。



メモ

- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

USB 機器について

使用できる USB 機器について

以下の条件を満たす USB ポータブルオーディオプレーヤー／USB メモリーが使用できます。

- 規格：USB 2.0 Full Speed
- 供給電流：500 mA
- USB クラス：MSC (Mass Storage Class) デバイス
- プロトコル：バルク
- 最大メモリー容量：250 GB
- ファイルシステム：FAT12、FAT16、FAT32
- m3u プレイリスト対応



ご注意

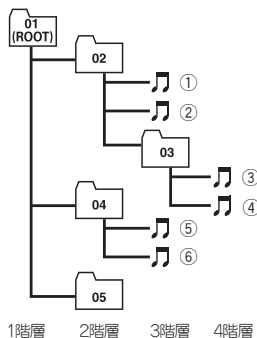
- 接続する USB 機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- パーティションを作った USB メモリーは使用できません。
- 使用する USB 機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- USB 機器は、本機のケーブルに直接接続してください。USB ハブを使用しての接続には対応していません。
- 本機で適切に再生するために、m3u プレイリストは、Windows Media Player Ver. 10 を使用してエンコードすることを推奨します。
- 本機で m3u プレイリストを再生する場合、以下の制限があります。
 - － 1 024 曲目まで再生可能
 - － ファイルの先頭から 128 KB 分まで再生可能
- USB 機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、USB 機器は必ず固定してください。USB 機器が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- USB メモリー、USB オーディオプレーヤー以外 (USB 扇風機など) は接続しないでください。
- USB 機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。

対応している圧縮オーディオファイルについて

- USB 機器に収録された WMA / MP3 / AAC ファイルを再生できます。
- 再生できるファイルの合計は、圧縮オーディオファイルとプレイリストファイルを合わせて最大 15 000 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 2 048 フォルダーです。
- USB 機器のフォルダー階層が多い場合、再生が始まるまでに時間がかかります。
- 画像データを含む圧縮オーディオファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (wma、.mp3、.m4a) を含めて半角で 32 文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角で 32 文字までです。(全角文字表示に対応している製品では、半角で 32 文字、全角で 16 文字まで表示できます。) ただし、文字コードの種類によって、最大表示文字数は半角で 16 文字になる場合があります。
- ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。

USB メモリー内のフォルダーについて

- USB メモリー内のフォルダーと圧縮オーディオファイルの構成は、下図のようになります。USB ポータブルオーディオプレーヤーの場合の構成は、プレーヤーによって異なります。



- 01～05はフォルダー番号の割り当て、①～⑥は曲の再生順の例です。ユーザーが本機でフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- 圧縮オーディオファイル／フォルダーの再生やスキャン再生での選択の順番は、次の条件で決まります。
 - －同じフォルダー内では、圧縮オーディオファイルがサブフォルダーより優先されます。
- 再生の順番を指定したいときは、図を参考に圧縮オーディオファイルをパソコンからUSBメモリーにコピーしてください。
 - －「001xxxx.mp3」や「099yyyyy.wma」などといったように、順番を示す数字をファイル名の先頭に付けることを推奨します。



ご注意

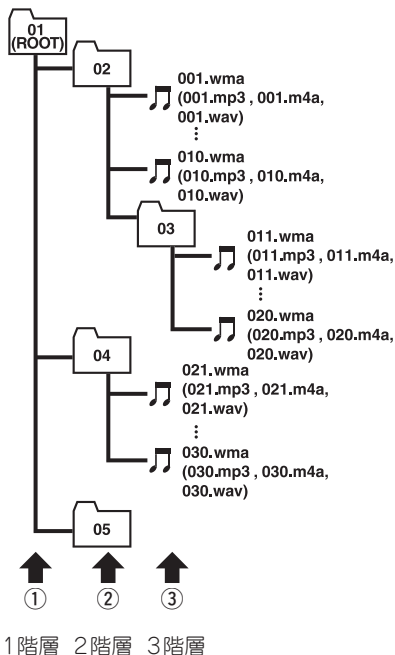
- iPodは、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPodを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPodは必ず固定してください。iPodが落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPodの取り扱いについて詳しくは、iPodの説明書をお読みください。

iPodの設定について

- 本機からiPodのイコライザは操作できません。本機にiPodを接続する前に、iPodのイコライザを「オフ」に設定することをおすすめします。
- iPodを本機に接続している場合、iPodのリピートは「オフ」に設定できません。また、iPodのリピートが「オフ」に設定されていても、本機に接続すると、自動的に「すべて」に変更されます。

フォルダーとWMA / MP3 / AAC / WAVファイルについて

- WMA / MP3 / AAC / WAVファイルを収録したCD-R / CD-RW / CD-ROMのイメージは下図のようになります。



- 本機はWMA / MP3 / AAC / WAVファイルが記録されたCD-R / CD-RW / CD-ROMの再生に対応しています。ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- 本機はマルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライトには対応していません。
- m3uのプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。

- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (wma, .mp3, .m4a, .wav) を含めて半角で64文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角で64文字までです。(全角文字表示に対応している製品では、半角で64文字、全角で32文字まで表示できます。)
- 拡張フォーマット (Romeo) に準拠して記録されたファイルの場合、半角で先頭から64文字までの表示に対応しています。(全角文字表示に対応している製品では、半角で64文字、全角で32文字まで表示できます。)
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがないCDを、WMA / MP3 / AAC / WAVファイルとしてCD-R / CD-RW / CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。



メモ

- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CDディスクに、WMA / MP3 / AAC / WAVファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA / MP3 / AAC / WAVファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えることができます (※ **ここだけで ② 23ページ**)。WMA / MP3 / AAC / WAVファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA / MP3 / AAC / WAVファイルを含まないフォルダーは認識しません。(フォルダー番号を表示せず、スキップします。)
- 8階層までのWMA / MP3 / AAC / WAVファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
- ディスクに含まれるフォルダーの合計が99個まで再生可能です。

WMA とは？

- 「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードすることができます。



ご注意

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバムなどの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できる WMA ファイルについて



ご注意

- WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けしないでください。
- 本機では、Windows Media Player Ver. 7 / 7.1 / 8 / 9 / 10 を使用してエンコードした WMA ファイルを再生することができます。

- 再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32 kHz～48 kHz です。
- 一般的に WMA ファイルは、ビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、以下の WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録された WMA ファイルの使用をおすすめします。
 - － 内蔵 CD の場合、CBR (固定ビットレート) では 48 kbps～320 kbps、VBR (可変ビットレート) では 48 kbps～384 kbps
 - － USB 機器の場合、CBR (固定ビットレート) では 5 kbps～384 kbps または、VBR (可変ビットレート)
- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - － Windows Media Audio 9 Professional (5.1ch)
 - － Windows Media Audio 9 Lossless (可逆圧縮)
 - － Windows Media Audio 9 Voice

MP3とは？

- 「MPEG Audio Layer 3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるMP3ファイルについて



ご注意

- MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.mp3)を付けてください。
- 本機は、拡張子(.mp3)が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3ファイル以外には拡張子(.mp3)を付けないでください。
- ID3 tagのVer. 1.0／1.1／2.2／2.3／2.4のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tagのVer. 1.XとVer. 2.Xが混在している場合は、Ver. 2.Xが優先されます。
- サンプル周波数が32 kHz～48 kHzのMP3ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。なお、再生可能なサンプル周波数は、以下の通りです。
 - － 内蔵CDの場合、16 kHz～48 kHz
 - － USB機器の場合、8 kHz～48 kHz
- 一般的にMP3ファイルは、ビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、以下のMP3ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128 kbps以上のビットレートで記録されたMP3ファイルの使用を推奨します。
 - － 内蔵CDの場合、8 kbps～320 kbps
 - － USB機器の場合、CBR(固定ビットレート)では8 kbps～320 kbpsまたは、VBR(可変ビットレート)

AACとは？

- 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

再生できるAACファイルについて



ご注意

- AACファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.m4a)を付けてください。
- 本機では、Ver. 6.0.5以前のiTunesを使用してエンコードされたAACファイルの再生に対応しています。
- 本機は、iTunesで作成された拡張子(.m4a)が付いているファイルをAACファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AACファイル以外には拡張子(.m4a)を付けないでください。
- 画像データを含むAACファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- AACファイルをエンコードしたiTunesのバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- AACファイルをライティングしたiTunesのバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 再生可能なAACファイルのサンプル周波数は、以下の通りです。
 - － 内蔵CDの場合、11.025 kHz～48 kHz
 - － USB機器の場合、8 kHz～48 kHz
- 一般的にAACファイルは、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16 kbps～320 kbpsのステレオビットレートで記録されたAACファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きいステレオビットレートで記録されたAACファイルの使用を推奨します。VBR(可変ビットレート)で記録されたAACファイルは再生できません。

- iTunes ミュージックストアで購入された楽曲 (.m4p) は、CD-R / CD-RW に記録して再生することはできません。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - － Apple ロスレス・エンコーダ

WAV とは？

- 「Waveform」の略で、Windows® での標準音声フォーマットです。

再生できる WAV ファイルについて



ご注意

- USB 機器に収録された WAV ファイルの再生には対応していません。
- WAV ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wav) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wav) が付いているファイルを WAV ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAV ファイル以外には拡張子 (.wav) を付けしないでください。
- 本機は、LPCM 形式および MS ADPCM 形式でエンコードされた WAV ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM 形式では 16 kHz ～ 48 kHz、MS ADPCM 形式では 22.05 kHz ～ 44.1 kHz のサンプリング周波数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- 一般的に WAV ファイルは、量子化ビット数が多いほど音質は良くなります。本機は、LPCM では 8 bit / 16 bit、MS ADPCM では 4 bit の量子化ビット数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きい量子化ビット数で記録されたディスクの使用を推奨します。

故障かな?と思ったら

故障かな?と

と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても

直らないときは

本機をリセットしてください。(※ はじめに ⑥ 15ページ)

それでも

直らないときは

「保証書とアフターサービス」(※ その他 ⑦ 117ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。 ヒューズが切れている。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(※ 取付説明書) ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものと交換してください。(※ 取付説明書)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下けている。 アッテネーターがONになっている。 前後の音量バランスの調節が適切でない。	音量を上げてください。(※ ここだけで ① 20ページ) アッテネーターを解除してください。(※ 便利な機能 ① 100ページ) 正しく調節してください。(※ 音の調節 ③ 84ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(※ 音の調節 ③ 84ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。(※ 音の調節 ④ 84ページ)
音量が自動的に変化する。	ASLがONになっている。	ASLを解除してください。(※ 音の調節 ④ 90ページ)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。(※ 初期設定 ⑩ 97ページ)
電源をOFFにしても映像が出ている。	フィーチャーデモがONになっている。	フィーチャーデモを解除してください。(※ 初期設定 ⑪ 97ページ)
ディスプレイの表示がおかしい。	エンタテインメント表示が設定されている。	お好みの表示を選んでください。(※ 便利な機能 ⑥ 102ページ)
電源をOFFにしても映像が出ている。	フィーチャーデモがONになっている。	フィーチャーデモを解除してください。(※ 初期設定 ⑪ 97ページ)
エンジンを切ったら警告音が鳴る。	デタッチワーニングがONになっている。	フロントパネルを取り外してください。フロントパネルを取り外さない場合は、デタッチワーニングをOFFにしてください。(※ 初期設定 ④ 92ページ)
エンジンを切ったらフロントパネルが自動で開く。	フェイスオートオープンがONになっている。	フロントパネルを取り外してください。フロントパネルを取り外さない場合は、フェイスオートオープンをOFFにしてください。(※ 初期設定 ④ 93ページ)

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (※ ここだけで② 24 ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。 (※ ここだけで② 24 ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。 (※ ここだけで② 24 ページ)

CD、WMA / MP3 / AAC / WAV

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDに交換してください。良くなれば、CDの不良です。
CDの再生が途中で止まる。CDを再生できない。	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (※ その他 ① 104 ページ)
	CDにくもりや水滴が付いている。	CDのくもりや水滴をふき取ってください。 (※ その他 ① 104 ページ)
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。(※ ここだけで ② 22 ページ)
CDを再生できない。CDを取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、▲ボタンを長く押しと、ディスクを取り出せます。もう一度、入れ直してください。

こんなメッセージが表示されたら

CD、WMA / MP3 / AAC / WAVのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-10」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-50」 「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生にしてください。
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	CDが汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (※ その他 ① 104 ページ)
	CDにキズやひびがある。	CDを交換してください。
「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R / CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R / CD-RWは録音してからお使いください。
「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CDを交換してください。
「No Audio」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA / MP3 / AAC / WAVファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている。	CDを交換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。



メモ

- マルチ CD 再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチ CD の取扱説明書をご覧ください。

USBのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」	USB コネクタまたはUSB ケーブルがショートした。	USB コネクタ／USB ケーブルが何かにはさまっていないか、破損していないか確認してください。
	規定 (※ その他 ② 106ページ) 以上の電流を消費するUSB 機器を接続した。	接続したUSB 機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにしてください。次に、対応するUSB 機器を接続してください。
「N/A PLAYLIST」	選んだプレイリストで指定されているファイルがすべてWindows Media DRM 9／10 で保護されている。	Windows Media DRM 9／10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを指定しているプレイリストを選んでください。
「N/A USB」	接続されたUSB 機器が本機に対応していない。	USB Mass Storage Class対応のUSB 機器を接続してください。
「No Audio」	何も収録・保存されていないUSB 機器を接続した。	対応する圧縮オーディオファイルが収録・保存されたUSB 機器を接続してください。
	セキュリティー機能付きのUSB メモリーを接続した。	USB メモリーの説明書に従って、セキュリティーを解除してから使用してください。
「PROTECT」	USB 機器内のすべてのWMA ファイルが Windows Media DRM 9／10 で保護されている。	Windows Media DRM 9／10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを収録・保存したUSB 機器を接続してください。
「TRK SKIPPED」	Windows Media DRM 9／10 で保護されたWMA ファイルを再生した。	Windows Media DRM 9／10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを再生してください。

iPodのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」 「ERROR-A0」	iPodは動作するが、充電されない。	iPodケーブルがショートしていないか(例えば、金属物に挟まれていないか)確認してください。確認後、車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、iPodを一度脱着してください。
「ERROR-11」	正常に通信できない。	コネクタを一度外し、iPodのメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでもiPodが正常に動作しない場合は、iPodをリセットしてください。
「ERROR-21」	iPodソフトウェアのバージョンが古い。	iPodソフトウェアのバージョンをアップデートしてください。
「ERROR-30」	iPodに問題が発生した。	iPodをリセットしてください。
「No Songs」	iPodに曲が入っていない。	iPodに曲を転送してください。
「STOP」	選んだプレイリストに曲が入っていない。	曲が入っているプレイリストを選んでください。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることを確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 共通部

使用電源：

DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)

アース方式：

マイナスアース方式

最大消費電流：

10.0 A

外形寸法：

(取付寸法)：

178 (W) × 50 (H) × 165 (D) mm

(ノーズ寸法)：

170 (W) × 45 (H) × 16 (D) mm

質量：

1.5 kg (コード含まず)

■ アンプ/オーディオ部

最大出力：

50 W × 4

50 W × 2 ch / 4 Ω + 70 W × 1 ch /
2 Ω (for サブウーファー)

定格出力：

22 W × 4

(50 Hz ~ 15 000 Hz, 5 % THD)

負荷インピーダンス：

4 Ω ~ 8 Ω × 4

4 Ω ~ 8 Ω × 2 + 2 Ω × 1

プリアウト最大出力レベル：

2.2 V

出力インピーダンス：

1 k Ω

イコライザー

(7バンド グラフィック イコライザー)：

周波数: 50 / 125 / 315 / 800 /
2k / 5k / 12.5k Hz

調整幅: ± 12dB (2dB step)

ラウドネスコンター：

(LOW)：

3.5 dB (100 Hz)

3 dB (10 kHz)

(MID)：

10 dB (100 Hz)

6.5 dB (10 kHz)

(HIGH)：

11 dB (100 Hz)

11 dB (10 kHz)

(ボリューム: -30 dB)

ハイパスフィルター：

周波数: 50 / 63 / 80 / 100 / 125 Hz

スロープ: -12 dB / oct

サブウーファー出力：

周波数: 50 / 63 / 80 / 100 / 125 Hz

スロープ: -18 dB / oct

調整幅: +6 dB ~ -24 dB

位相: NORMAL / REVERSE

バスブースター：

調整幅: +12 dB ~ 0 dB

■ CD プレーヤー部

形式：

コンパクトディスクオーディオシステム

使用ディスク：

コンパクトディスク

信号フォーマット：

サンプリング周波数：

44.1 kHz

量子化ビット数：

16ビット直線

周波数特性：

5 Hz ~ 20 000 Hz (±1 dB)

S/N比：

94 dB (1 kHz)

(IHF-A ネットワーク)

ダイナミックレンジ：

92 dB (1 kHz)

チャンネル数：

2 (ステレオ)

WMA デコーディングフォーマット：

Ver. 7、7.1、8、9、10 (2 ch audio)

(Windows Media Player)

MP3 デコーディングフォーマット：

MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3

AAC デコーディングフォーマット：

MPEG-4 AAC

(iTunes でエンコードされたもののみ)

WAV シグナルフォーマット：

Linear-PCM、MS ADPCM

■ USB部

USB規格：

USB 2.0 Full Speed

最大供給電流：

500 mA

最大メモリー容量：

250 GB

ファイルシステム：

FAT12、FAT16、FAT32

WMAデコーディングフォーマット：

Ver. 7、7.1、8、9、10 (2 ch audio)
(Windows Media Player)

MP3デコーディングフォーマット：

MPEG-1、2 & 2.5 AUDIO LAYER-3

AACデコーディングフォーマット：

MPEG-4 AAC
(iTunes でエンコードされたもののみ)

■ FMチューナー部

受信周波数帯域：

76.1 ~ 89.9 MHz

実用感度：

8 dBf (0.7 μ V / 75 Ω 、
モノラル、S/N : 30 dB)

S/N：

75 dB (IHF-A ネットワーク)

高調波歪率：

0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)、
0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)

周波数特性：

30 Hz ~ 15 000 Hz (\pm 3 dB)

ステレオセパレーション：

45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

■ AMチューナー部

受信周波数帯域：

522 kHz ~ 1 629 kHz (9 kHz)

実用感度：

18 μ V (S/N : 20 dB)

S/N：

65 dB (IHF-A ネットワーク)

■ 付属品

コードユニット	: 1 式
AUXケーブル	: 1
取付ネジ類	: 1 式
取扱説明書	: 1
取付説明書	: 1
リモコン	: 1
リチウム電池 (CR2025)	: 1
安全上のご注意	: 1
保証書	: 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	: 1



メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付時間 月曜～金曜 9：30～18：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

● カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話 ☎ **0070-800-8181-11** 【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付時間 月曜～金曜 9：30～19：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話 ☎ **0120-5-81028** 【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス ☎ **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間 月曜～金曜 9：30～18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話 【一般電話】 **098-879-1910**

ファックス **098-879-1352**

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9：30～18：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

電話 ☎ **0120-5-81095** 【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス ☎ **0120-5-81096**

パイオニア株式会社

© パイオニア株式会社 2006

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

< KMMZX > < 06J00000 > < CRA3986-A/N >